

no+e

2023年11月期第2四半期 決算説明資料

2023.7.14 note株式会社（東証グロース：5243）



目次

- 01 決算概要
- 02 業績予想
- 03 今後の成長戦略
- 04 お知らせ
- 05 Appendix
 - 会社概要
 - 事業概要

目次

01 決算概要

02 業績予想

03 今後の成長戦略

04 お知らせ

05 Appendix

- 会社概要
- 事業概要

2023年11月期第2四半期 決算ハイライト

2023年11月期 第2四半期決算

- **営業利益**はコストマネジメント強化により▲88百万円となり、1Qの▲221百万円から大幅に赤字幅が縮小。
- **売上**は1Qから**堅調に成長**し、売上高は2Q累計1,347百万円（前年同期比+17.9%）、売上総利益は2Q累計1,243百万円（前年同期比+21.6%）。
- 上期の業績は順調に進捗しており、通期業績予想の修正はなし。

note事業

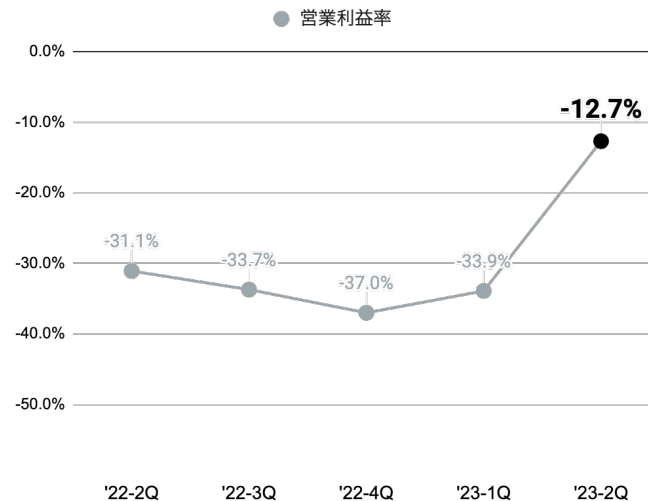
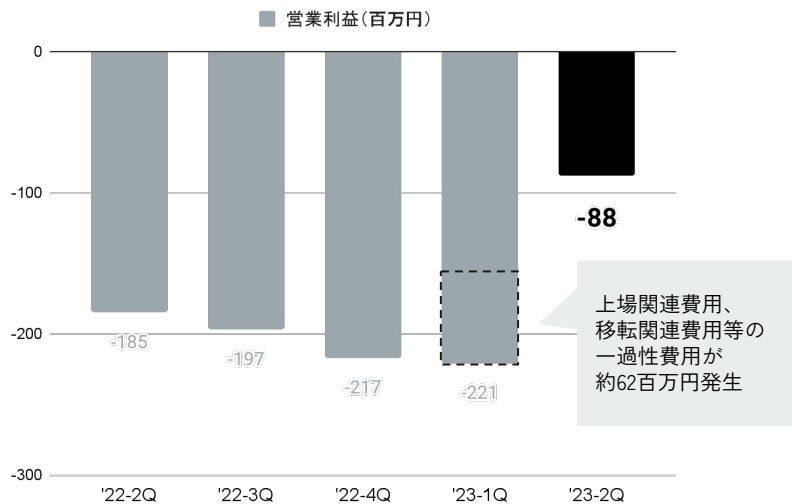
- GMVは主に**購読者数の増加**を背景に、3,318百万円（前年同期比+18.1%）に拡大。
- SNSプロモーション機能の導入など下期に向けてGMV拡大につながる施策を実施。

note pro事業

- 有料契約数694件、ARRは前年同期比+36.5%増加し416百万円。
- 料金改定による**ARR引き上げ効果は3Q以降に寄与**する想定。

赤字幅が大幅縮小

売上成長に加え、人件費の抑制や業務委託等支出の見直しによるコストマネジメント強化を進めたことにより、赤字幅が大幅に縮小。本社・イベントスペース移転による地代家賃の削減効果は3Q以降に寄与する想定。



2023年11月期第2四半期 KPIサマリー

重視するKPIの推移は以下の通り。引き続きnoteのユーザー数・コンテンツ数は増加しており、プラットフォームは順調に拡大。

note 四半期GMV (流通総額)

3,318 百万円

(前年同期比 +18.1%)

note pro ARR

416 百万円

(前年同期比 +36.5%)

累計会員登録者数

663 万人

(前年同期比 +28.6%)

公開コンテンツ数

3,490 万件

(前年同期比 +35.8%)

累計ユニーククリエイター数

117 万人

(前年同期比 +20.0%)

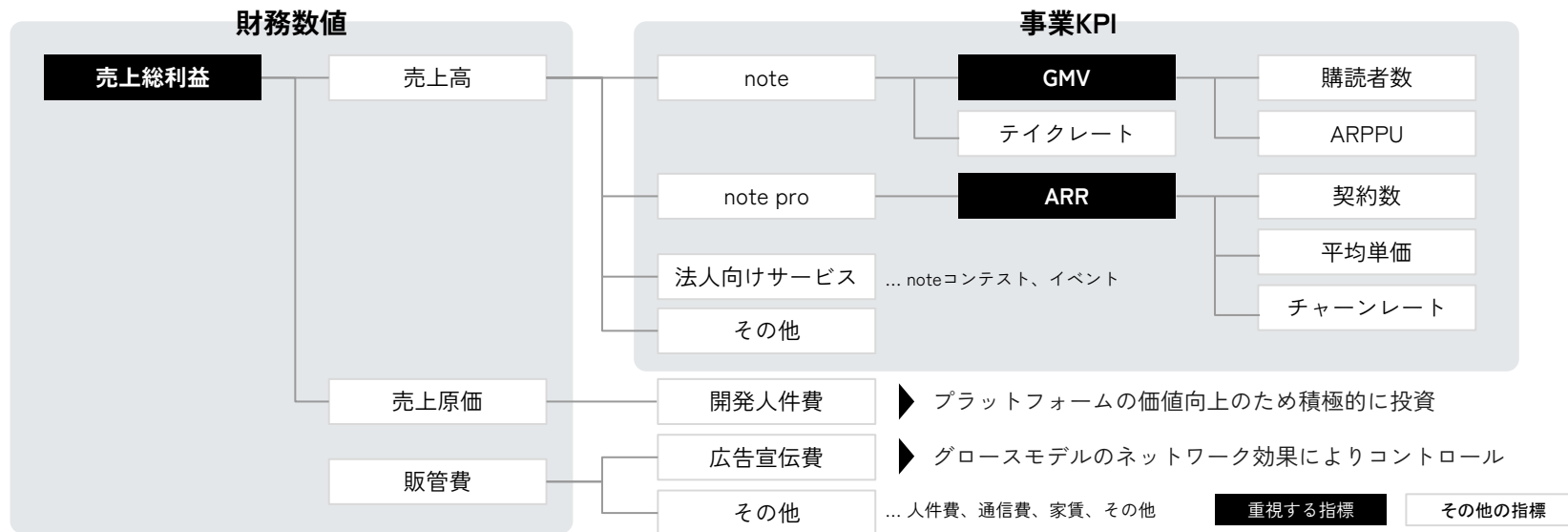
2023年11月期第2四半期 業績サマリー

コストマネジメント強化により、営業利益以下各利益指標は前年同四半期に比べ大幅に赤字幅が縮小。
売上高・売上総利益も堅調に成長。

単位：百万円	2023年11月期 第2四半期	2022年11月期 第2四半期	対前年比増加率	2023年11月期 第2四半期累計	2022年11月期 第2四半期累計	対前年比増加率
売上高	693	596	16.3%	1,347	1,142	17.9%
売上総利益	641	534	20.1%	1,243	1,022	21.6%
営業利益/損失	▲88	▲185	—	▲309	▲316	—
経常利益/損失	▲93	▲192	—	▲343	▲322	—
当期純利益/損失	▲94	▲192	—	▲344	▲323	—

参考：財務構造と重視する指標

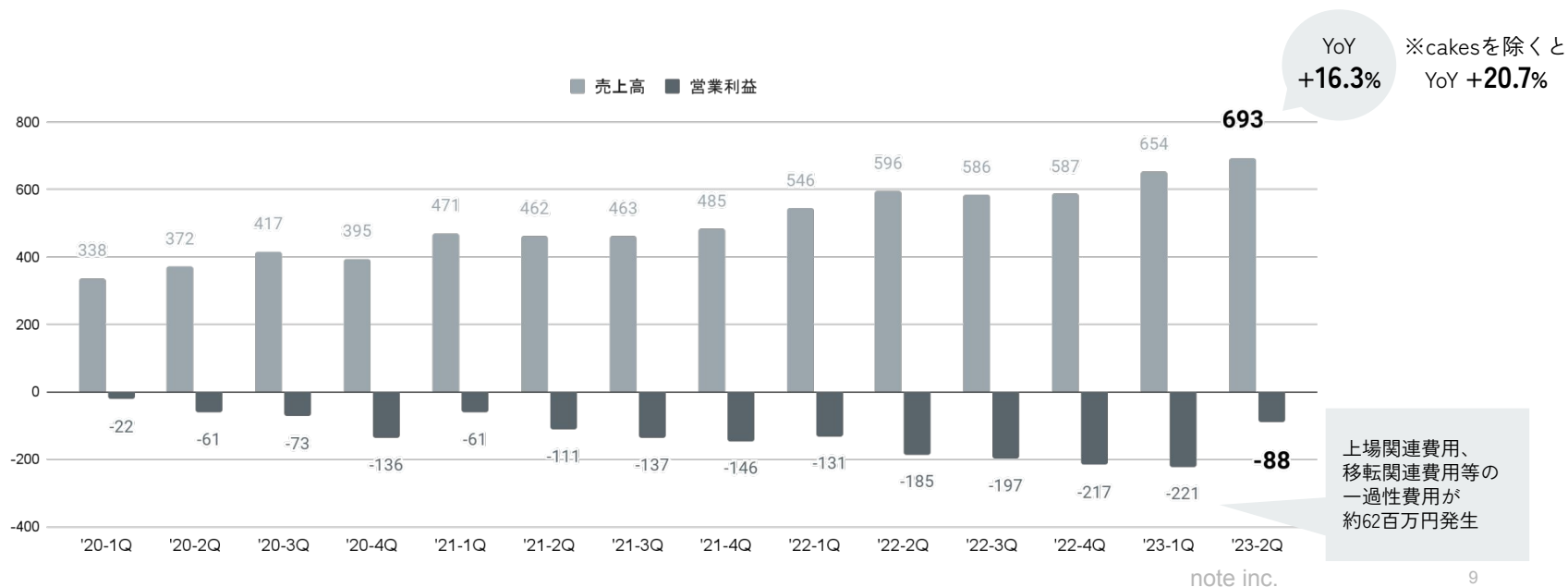
財務指標のうち売上総利益を最重視し、最大化を目指す。そのためプラットフォームのネットワーク効果を働かせ、広告宣伝費等コストを抑制しつつ、noteのGMV・note proのARRを事業KPIと設定し、売上高を成長させる方針。



売上高・営業利益 四半期推移

売上高は前年対比で+16.3%増加。昨年クローズしたcakesの影響を除くと+20.7%の成長。

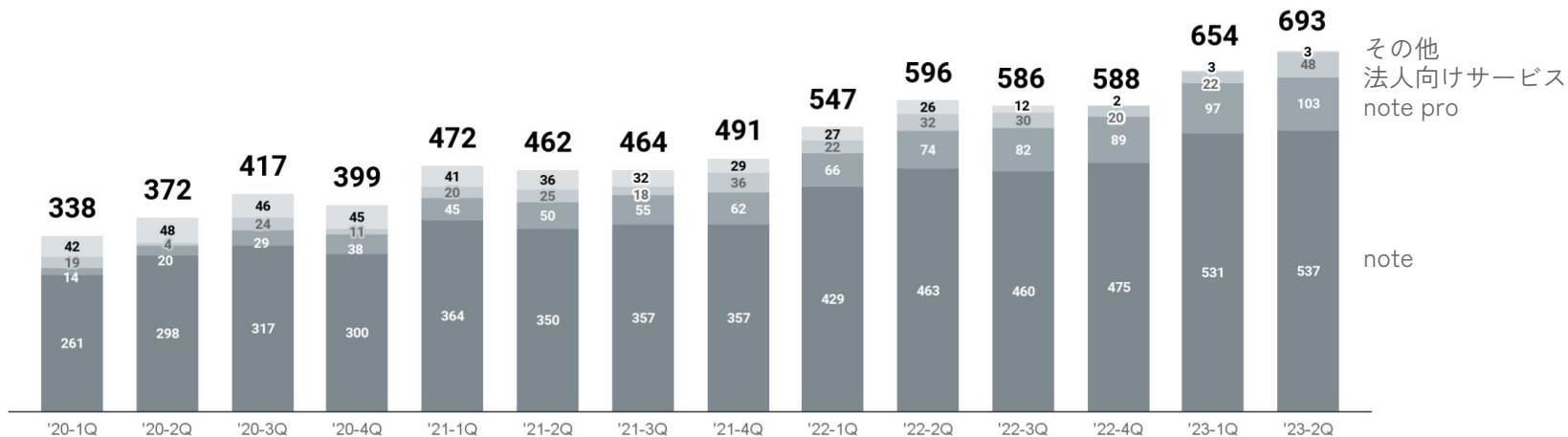
営業利益は、FY23-1Qに上場関連費用・移転関連費用等の一過性費用を計上したものの、赤字幅は縮小傾向。



売上高 内訳の推移

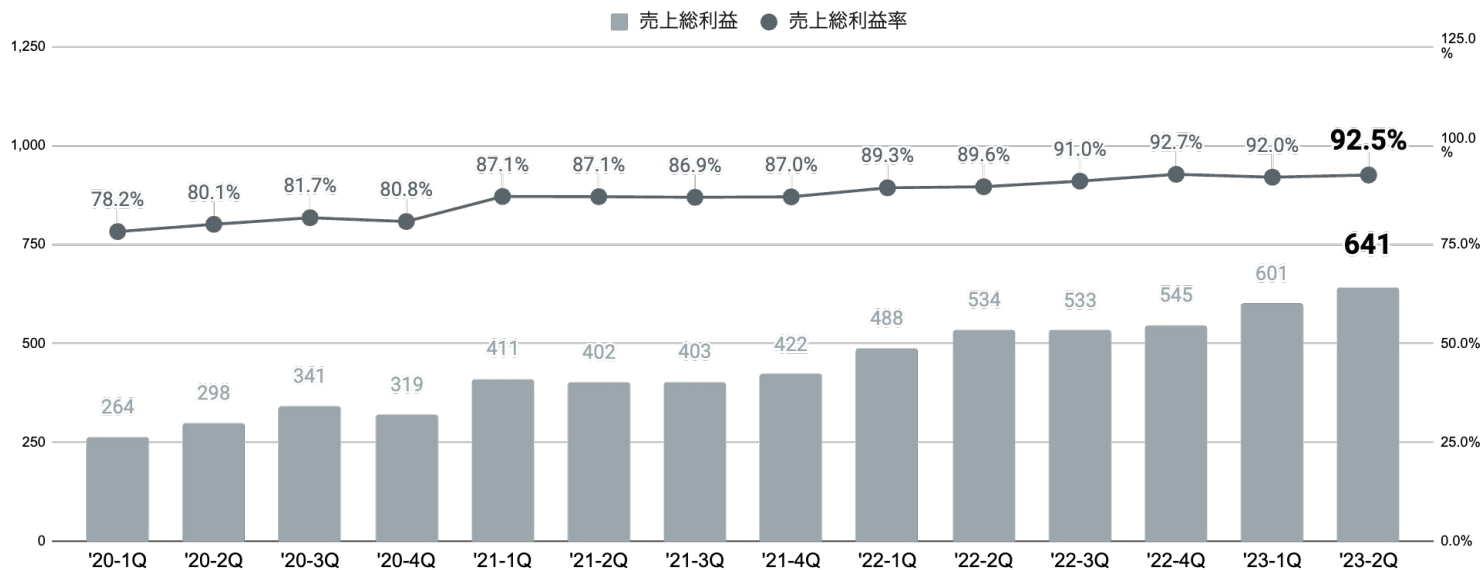
各事業が着実に成長。特にnote pro事業、法人向けサービスが拡大。

売上高内訳（百万円）



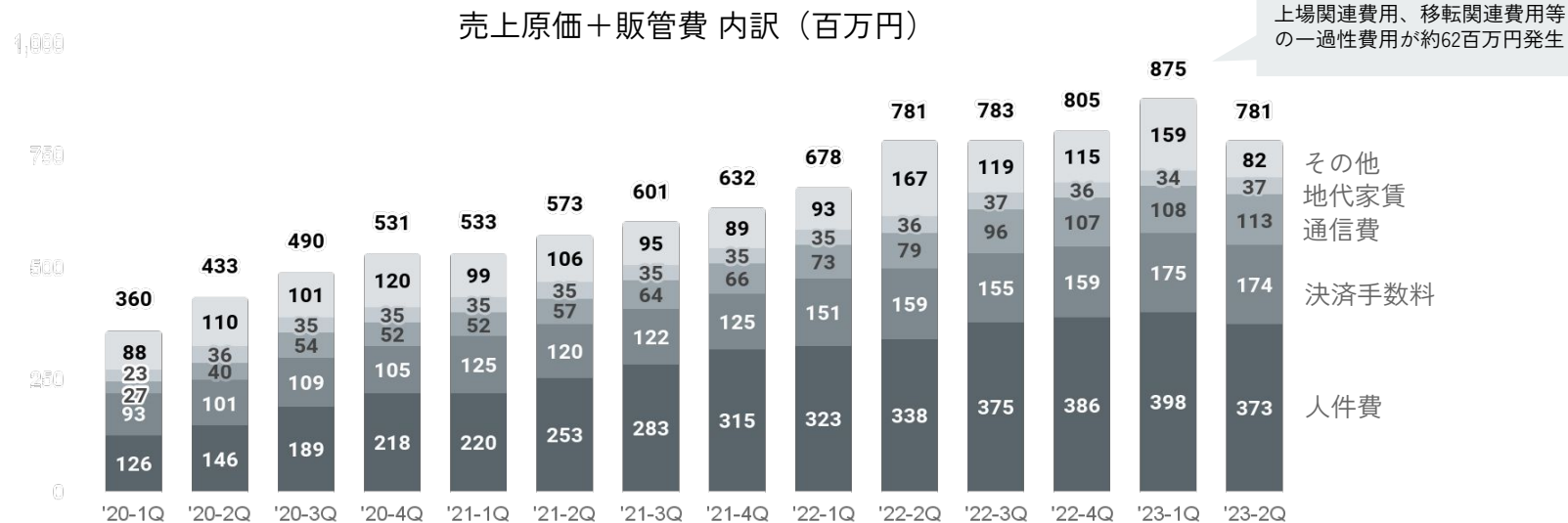
売上総利益・売上総利益率 四半期推移

重要指標としている売上総利益は着実に拡大。売上総利益率も9割超と高水準で推移。



売上原価＋販管費内訳

FY23-1Qに計上した一過性費用がなくなったことに加え、コストマネジメント強化の取り組みにより、売上原価・販管費ともに減少。本社移転に伴う地代家賃の削減効果は3Qから寄与する想定。

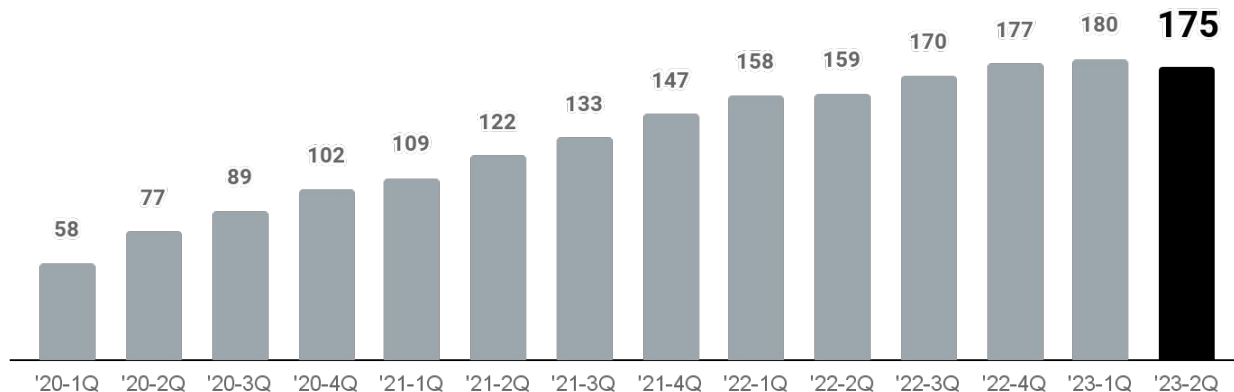


* 数値は売上原価・販管費に計上されたものをそれぞれ合計したもの
 * 人件費は給与手当、通勤手当、法定福利費、福利厚生費、および採用教育費を合計したもの

人員数推移

昨年まで、先行投資のためエンジニア・デザイナーなどプロダクトに関わるテック人材を中心に人員を確保。足元では採用活動を抑制しており、今後の人員数は横ばい程度で推移する想定。

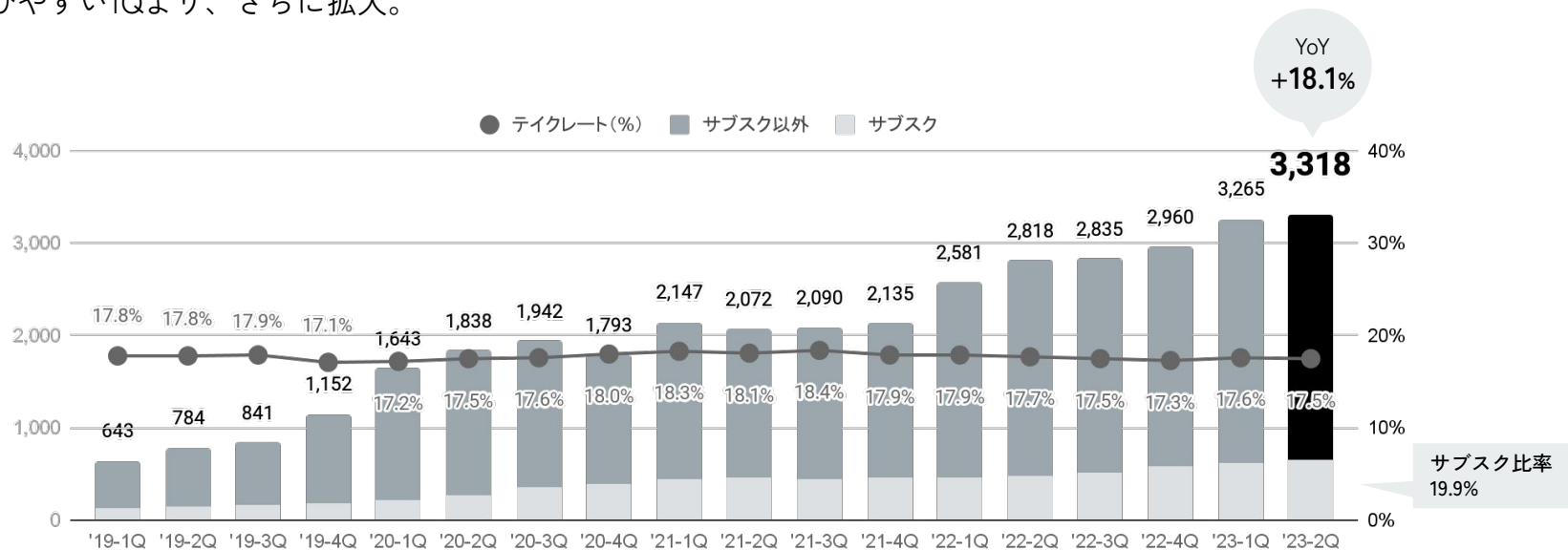
人員数推移（人）



* 人員数は正社員及び契約社員の合算で算出しており、役員・臨時雇用者は含まない。

note：流通総額（GMV） / テイクレート

noteの街の成長に伴い流通総額は順調に増加しており、四半期流通総額は33億円を突破。季節性要因から特にGMVが伸びやすい1Qより、さらに拡大。



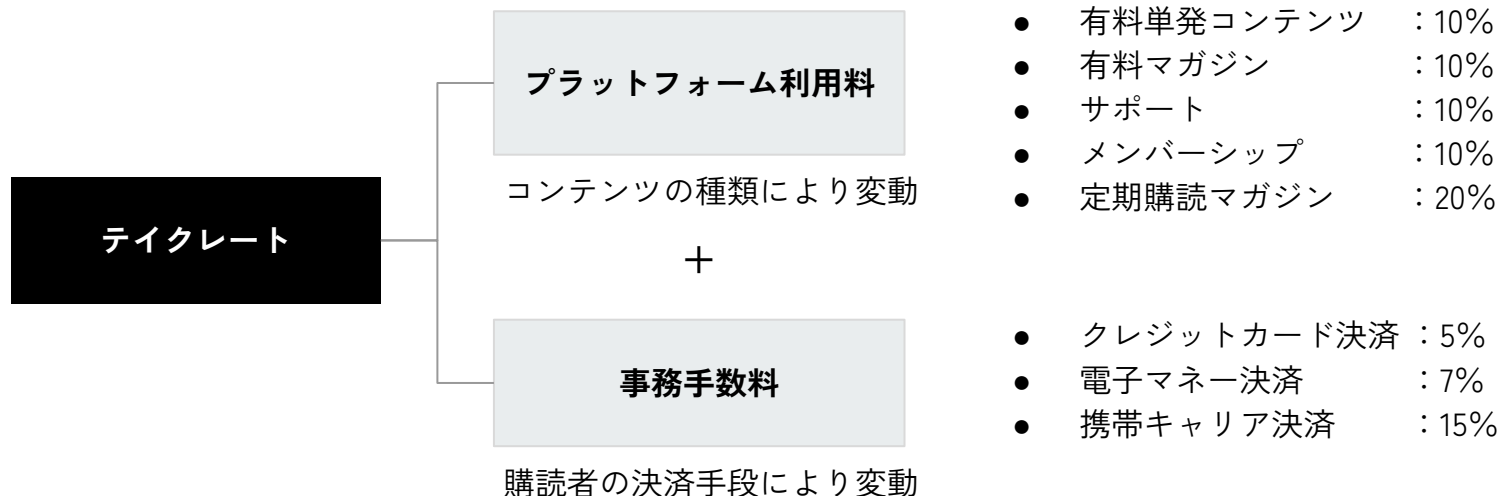
* テイクレートは、流通総額に占めるプラットフォーム利用料+決済手数料（ともに税込）の割合を四半期で平均したものです。

* 2023年11月期第1四半期より、四半期流通総額の集計からnoteプレミアムの利用料を除外しています。

* 「サブスク」は、メンバーシップならびに定期購読マガジンを対象として計算。

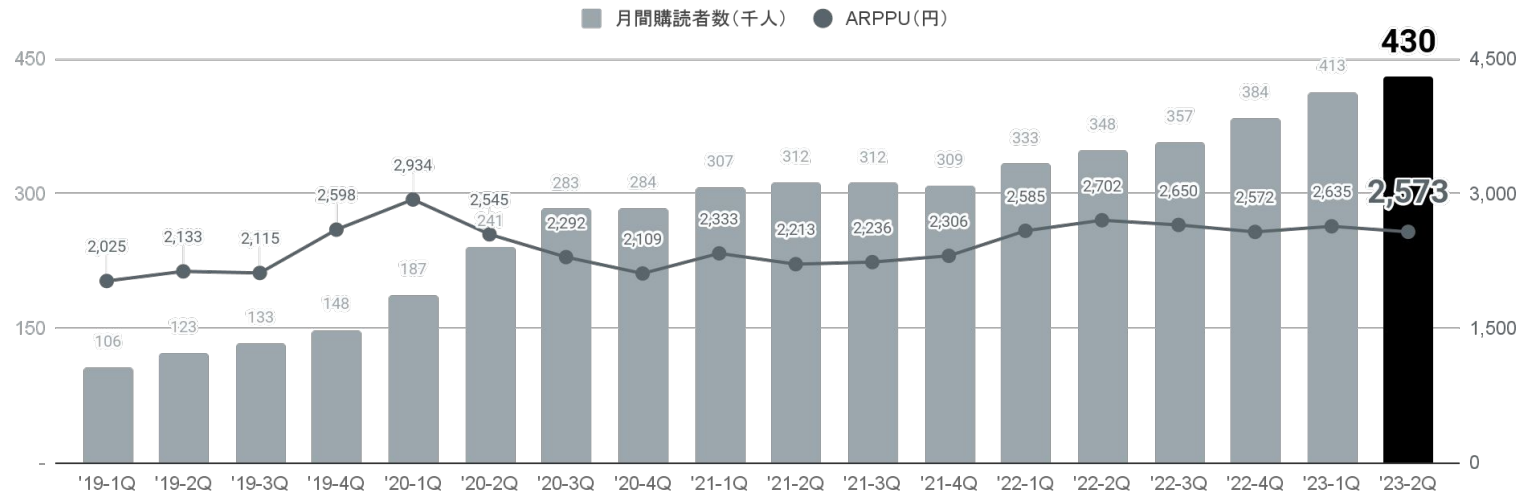
参考：テイクレートを構成する要素

テイクレートはプラットフォーム利用料と事務手数料で構成されており、プラットフォーム利用料はコンテンツの種類によって異なり、事務手数料は購読者の決済手段に応じて変動。テイクレートはこの加重平均となる。



note：購読者数とARPPU

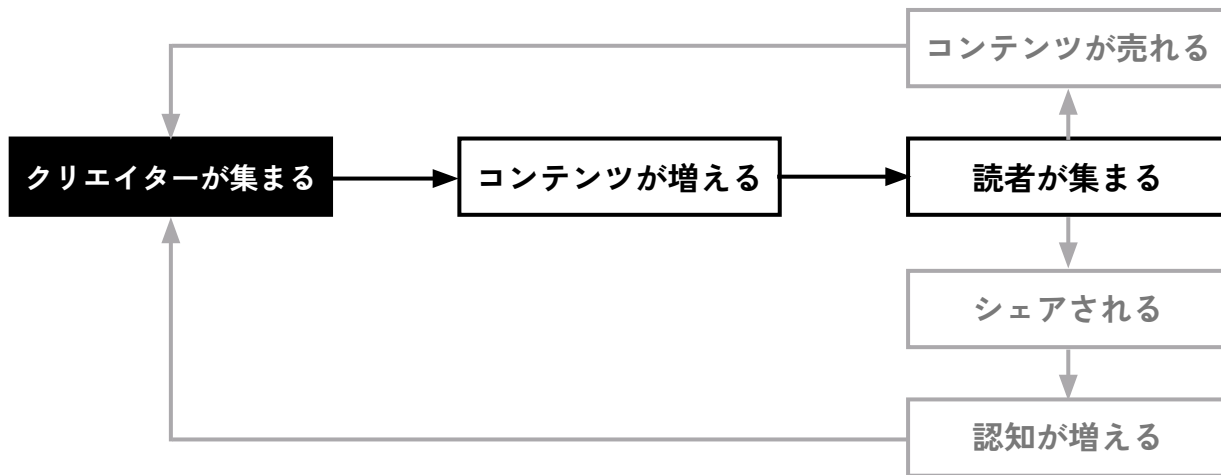
GMV増加の要因として、購読者の堅調な増加が寄与。ARPPUは2,600円前後で安定的に推移。



- * 月間購読者数は、各四半期間中にnote上で課金を実施した一月当たりの平均アカウント数。(非ログイン購入のゲストユーザーを含む)
- * ARPPU=Average Revenue Per Paid Userは各四半期の購読者一人当たりの平均月間購入額。
- * 「購入総額 月額課金額別構成比率」は、購入総額を月額課金額ベースで集計した比率。

noteのグロースモデル

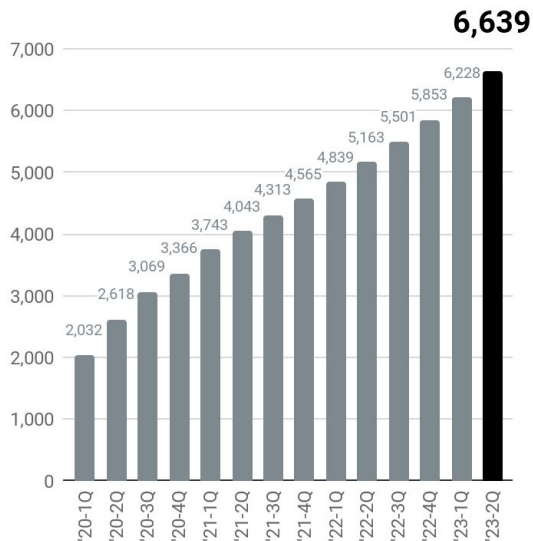
クリエイター・読者・コンテンツの相互作用によるネットワーク効果をはたらし、広告宣伝費をかけずに自律的に拡大するグロースモデルによって競争優位を実現。noteの公開記事のうち有料コンテンツの比率は22.9%（2023年5月時点）。無料記事は多くの読者をnoteに惹きつける広告宣伝的な役割を果たしており、サービス運営上重要な位置付けとなっている。



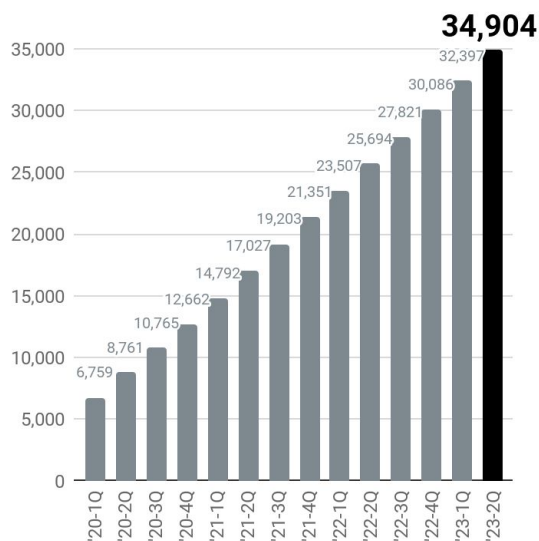
クリエイティブの街 noteの成長

ユーザー数・クリエイター数・コンテンツ数はいずれも増加傾向にあり、noteの街が着実に成長。

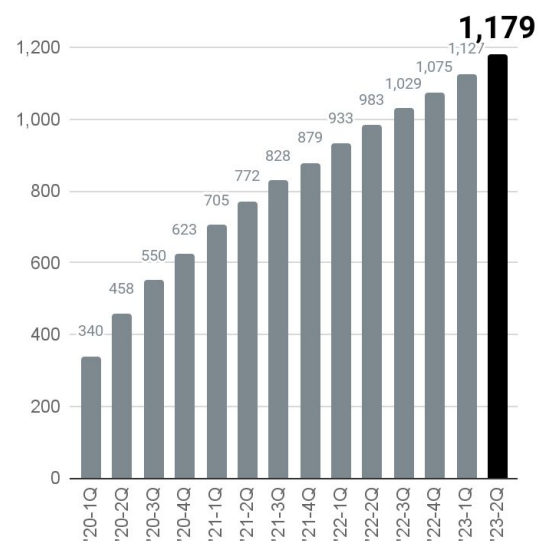
累計会員登録者数（千人）



公開コンテンツ数※1（千件）



累計ユニーククリエイター数※2（千人）



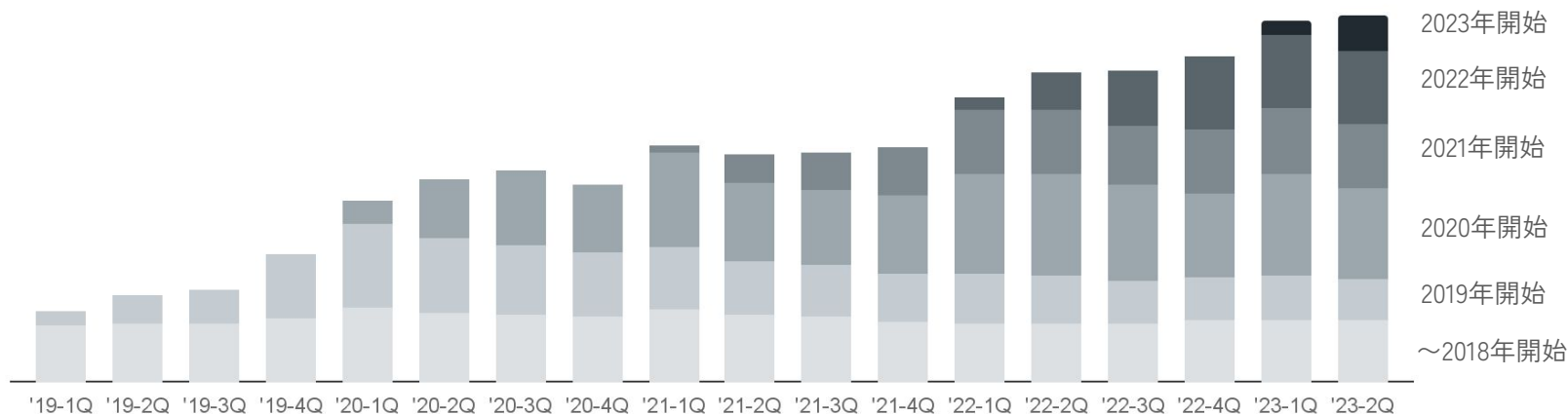
※1 公開コンテンツ数は各月末時点でnote上に公開されている累計コンテンツ数

※2 累計ユニーククリエイター数は過去にコンテンツ（削除されたものも含む）を投稿したユーザーの総数

note：クリエイターの継続利用によるリカーリングレベニュー

2022年に開始したクリエイターの売上も順調に積み上がっており、クリエイターの継続利用により、GMVも継続的に積み上がるストック型のビジネスモデルを志向。

クリエイター記事投稿開始年度別売上高

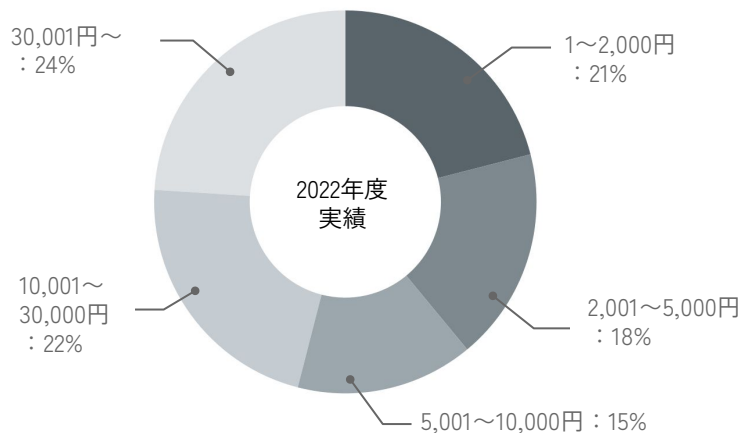


* クリエイター記事投稿開始年度は、有料・無料関係なくnote上で初めて記事を作成・公開した日付をベースに集計。一部記事公開日が特定できないものを除外してグラフを作成。

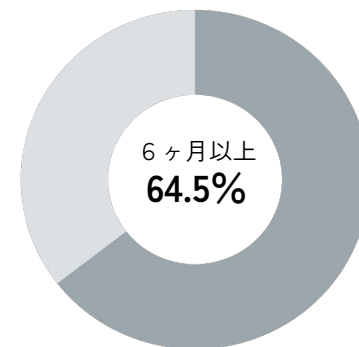
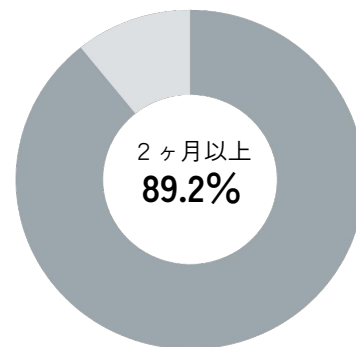
note：購読者データ（2022年度）

2022年度の購入総額の月額課金額別でみると、少額課金から高額課金までバランスが取れた内訳になっている。購入頻度は1年に2ヶ月以上が9割程度となっており、継続的に課金している購読者が多い。

購入総額 月額課金額別構成比率



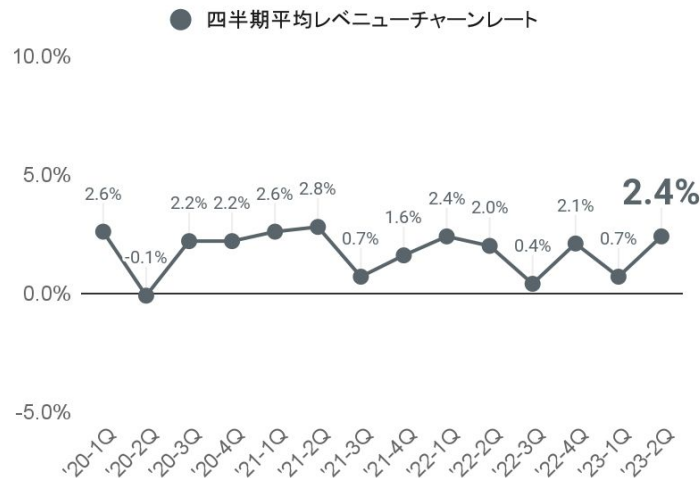
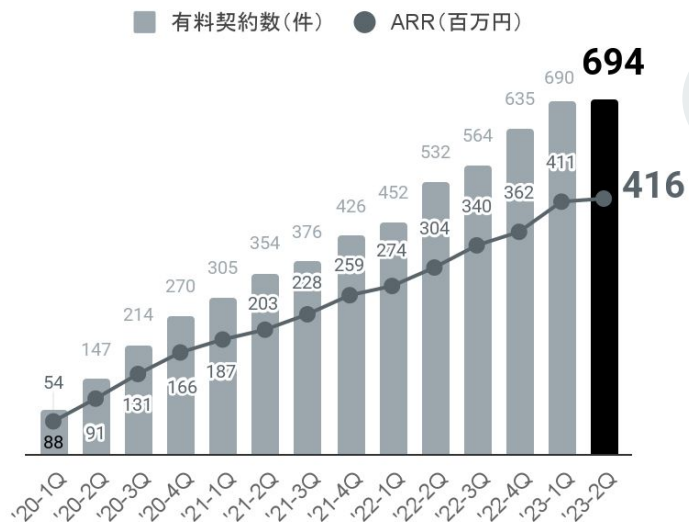
1年間における記事購入月数
(2022年度実績、金額ベース)



* 「購入総額 月額課金額別構成比率」は、購入総額を月額課金額ベースで集計した比率。

note pro : ARR / 有料契約数 / チャーンレート

ARRは416百万円と前年同期比+36.5%増加。2-3月に実施した3ヶ月半額キャンペーンの効果が5月末まで影響するため、新料金での契約締結によるARRの引き上げ効果は3Q以降に寄与する想定。チャーンレートは2%前後で推移。



* 有料契約数は、契約日ではなく売上計上日を基準に集計
 * ARR=Annual Recurring Revenueは、各四半期末月のMRRを12倍したものの。
 * MRR=Monthly Recurring Revenueは、月次経常収益。MRRには、note proの基本料金に加え、一部オプション料金も含む。
 * レベニューチャーンレートは、顧客に対する収益をベースに計算した解約率。
 収益ベースで計算しているため、解約が生じた月でもキャンペーン料金の適用期間終了やオプション追加等により継続顧客からの収益が増加した場合には、レベニューチャーンレートがマイナスとなることがある。

直近の取り組み

noteの利用価値をさらに高め、より幅広いクリエイターに利用いただくためのさまざまな取り組みを実施。

- 2023年3月
 - 福島県教育委員会と協定を締結 県内99校がnoteを開設
 - 上場企業のIR記事を配信する共同運営マガジン「IR note マガジン」創刊
- 2023年4月
 - AIアシスタント(β)、全クリエイターが利用可能に
 - 日本最大級の投稿コンテスト「創作大賞」募集開始
- 2023年5月
 - Twitterで記事を拡散した読者に割引価格で販売できる「SNSプロモーション機能」提供開始
- 2023年6月
 - 本社・イベントスペース移転
 - noteの会員登録なしでもPayPayによる記事購入に対応

目次

01 決算概要

02 業績予想

03 今後の成長戦略

04 お知らせ

05 Appendix

- 会社概要

- 事業概要

コストマネジメントの取り組み（※数値は4月14日修正公表時点から修正なし）

早期の黒字化に向けてコストマネジメントを強化。人件費・地代家賃・業務委託費の削減効果は以下のとおり。今期から段階的に削減効果が出始め、来期には通期で寄与。

取り組み内容

コストインパクト

人件費

- 既存メンバーの最適配置を実施。
- オペレーション効率化により必要工数を削減。
- 新規採用ペースを緩和。

- これまでの増加ペースが緩和し、第二四半期以降は**横ばい**に向かう

地代家賃

- 本社オフィス・note placeの2拠点体制から1拠点に集約移転。
- 移転先としてWeWorkを選定して固定資産投資を圧縮。
- リモートワーク制度との併用でオフィス規模を最適化。

- 年換算**約60百万円**の削減効果*

業務委託費

- オペレーション効率化に併せて既存の委託内容を精査。

- 年換算**約90百万円**の削減効果*

* 削減効果の金額は、FY2022通期の金額と、削減が完了した定常状態想定での通期の金額を比較して試算したものと。

2023年11月期業績予想（※数値は4月14日修正公表時点から変更なし）

売上高は下期にさらなる成長を見込んでおり、想定通りの進捗。売上総利益以下の各利益指標は、コストマネジメント強化の効果によりさらに高い進捗率で推移。

単位：百万円	2023年4月14日開示 通期業績予想	2022年11月期 通期実績	増減率	2023年11月期 第2四半期	進捗率
売上高	2,850 ～ 3,150	2,317	23.0% ～ 35.9%	1,347	42.8% ～ 47.3%
売上総利益	2,520 ～ 2,770	2,100	20.0% ～ 31.9%	1,243	44.9% ～ 49.3%
営業利益/損失	▲630 ～ ▲430	▲732	—	▲310	—
経常利益/損失	▲650 ～ ▲450	▲742	—	▲344	—
当期純利益/損失	▲650 ～ ▲450	▲756	—	▲344	—

中長期的な業績見通し

中長期的な業績については、下記方針で早期黒字化を目指して運営する方針。

売上

- note・note proを中心に、**各事業の拡大により成長率を緩めず継続的な成長を目指す**
- 主に、noteは購読者の増加、note proは契約数の増加による拡大を想定

コスト

- 人材確保はすでに十分に進めてきたため、**人件費の増加幅は緩やかになる想定**
- その他コストコントロールの取り組みを強化

利益

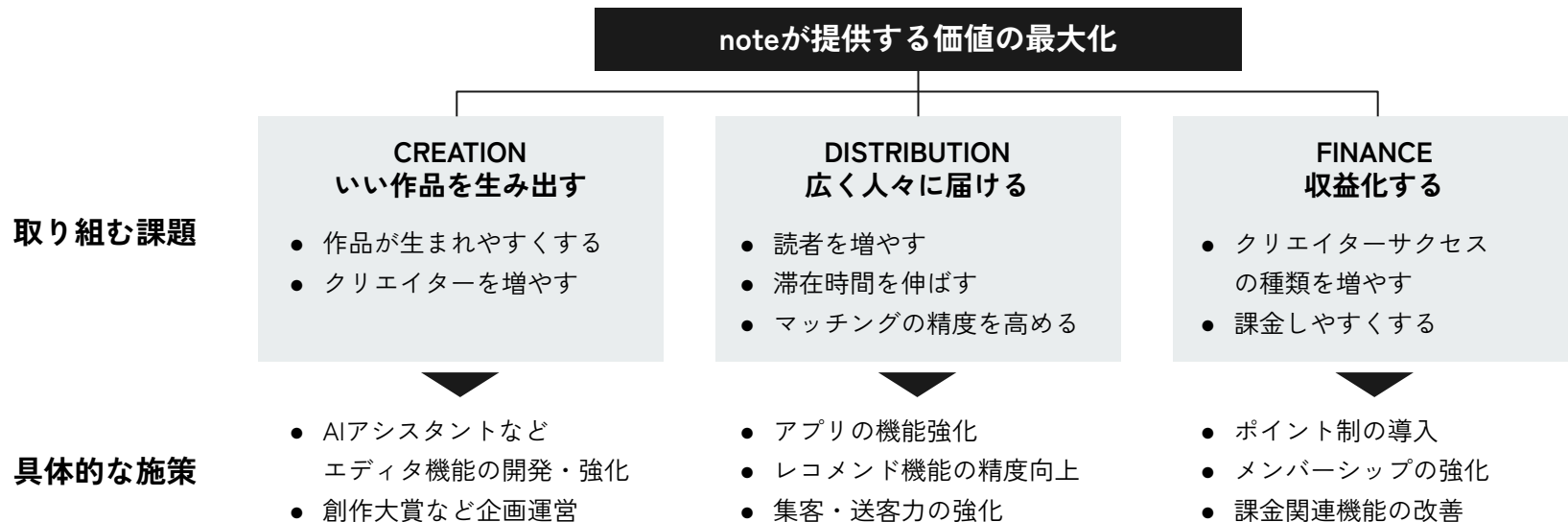
- 高い売上高成長率の維持とコストコントロールの強化により、**赤字幅が縮小していく想定**
- **早期の黒字化を目指す**

目次

- 01 決算概要
- 02 業績予想
- 03 今後の成長戦略**
- 04 お知らせ
- 05 Appendix
 - 会社概要
 - 事業概要

noteが取り組む課題と具体的な施策

CREATION、DISTRIBUTION、FINANCEをバランスよく伸ばすことがnoteが提供する価値を最大化するために重要であり、各項目を伸ばすため以下の施策に注力している。





AIアシスタント(β)の導入

GPTシリーズを搭載した創作支援ツール「AIアシスタント(β)」を4月より全ユーザーに提供開始。累計24,000人超^{※1}のユーザーが活用、使用できる回数が多いnoteプレミアム会員数は3ヶ月で6%^{※2}増加。

AIアシスタント(β)利用実績

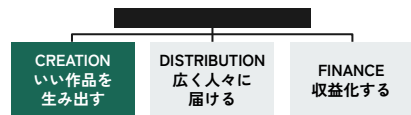
利用ユニークユーザー数

24,000人超^{※1}

会員ごとに使える機能一覧	料金	使える回数	機能
無料会員	無料	月5回まで	25個の基本機能
noteプレミアム会員	月額500円	月100回まで	25個の基本機能
法人向け高機能プラン note pro	月額8万円	無制限	25個の基本機能 + 8個の限定機能 ・プレスリリースの構成を提案 ・イベント告知を作る ・炎上リスクの確認 など

※1 6月末時点数値

※2 3月末と比較した6月末時点の数値



AIアシスタント(β) 機能一覧

自分専属の編集者のように、記事のアイデアや文章の改善点について提案を受けられる33個の機能を提供。創作をはじめるときのサポートとして、記事のアイデア・構成・書き出しを提案する機能が特に活用されている。

1. 書きはじめる前に

記事のアイデア・構成・書き出しを提案、テンプレート（プレスリリースの構成、求人募集、メルマガの構成、会議のアジェンダ、会議の議事録、イベント告知、FAQの雛形、プロフィール文章）

2. 表現をととのえる

書きかえを提案（やわらかく、フォーマルに、エモーショナルに、わかりやすく、簡潔に）
用語の説明を追加、類語を提案

3. 文章をまとめる

要約する、3行まとめ、SNS投稿用にまとめる、文末のまとめ、段落の見出しを提案

4. レビュー

もっと読まれるように提案、まちがいをを見つける、反対意見を聞く、炎上リスクの確認

5. タイトルを提案

魅力的なタイトルを提案、
フォーマルなタイトルを提案

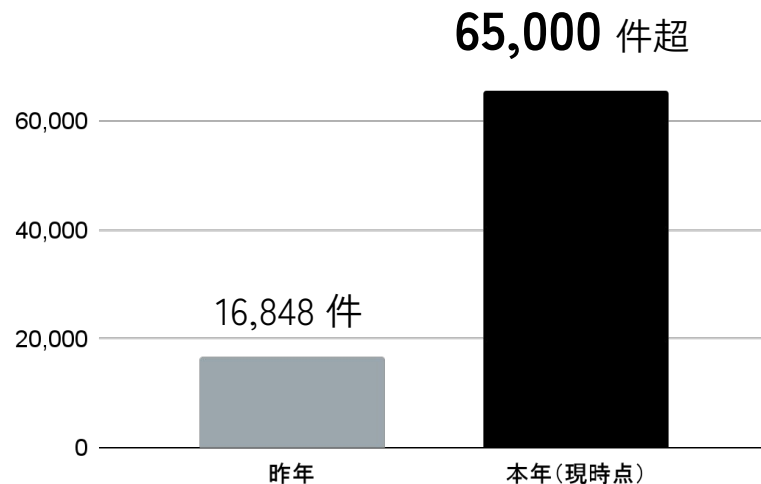
6. その他

翻訳（英語、日本語、中国語、韓国語）



創作大賞の開催

インターネットでの創作すべてを対象とする日本最大級の投稿コンテスト「創作大賞」を開催。受賞クリエイターは書籍化・映像化デビューの機会を獲得できるコンテスト。4月募集開始からすでに6.5万件超^{*}の応募が集まる。



* 7月14日決算発表時点



クリエイターエコノミー協会主催「誹謗中傷対策検討会」に参画

当社が代表理事を務める一般社団法人クリエイターエコノミー協会において、誹謗中傷対策検討会を設立。クリエイターが安心して創作活動に集中できる環境づくりのため当社も参画し、業界の垣根を超えた課題解決に取り組む。

設置の背景と目的

クリエイターエコノミー協会と三菱UFJリサーチ&コンサルティングが共同で実施した調査では、クリエイターの4人に1人が誹謗中傷を受けた経験があると回答。大きな社会問題となっていることを受け、業界の垣根を超えて連携し改善に取り組んでいくことを目的に設置。

本検討会参画企業



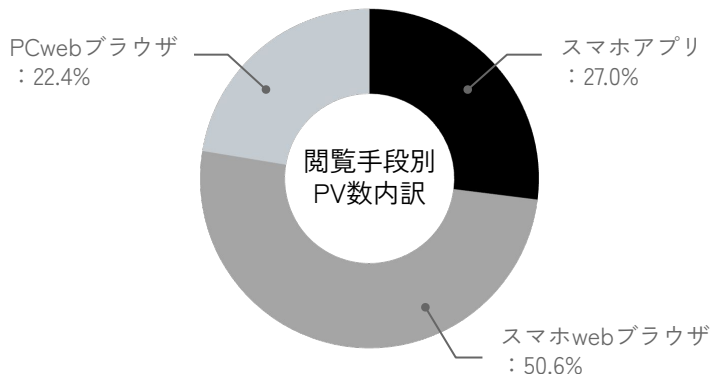


アプリの機能強化・ポイント制の導入計画

ユーザーエンゲージメントを高めること、アプリからの課金に対応することを目的に、アプリの機能強化とポイント制導入を計画中（正式ローンチ時期未定）。コンテンツの閲覧・売買頻度の向上により、GMVの拡大につなげる。

閲覧手段別 PV数内訳

アプリからの利用の場合ユーザーエンゲージメントが高く、現状PV内訳のうち3割近くがアプリとなっているが、課金ができない状況。



期待される効果



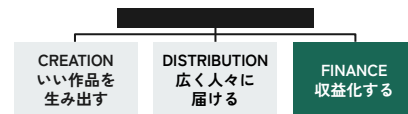
アプリ利用の増加により、記事が読まれる・買われる機会が増える



ポイントの活用により、新しい課金手法・施策が導入しやすくなる



ユーザーの利用状況が外部プラットフォームに影響されにくくなる



サブスク機能「メンバーシップ」の拡大

サブスク機能として昨年7月より「メンバーシップ」機能を提供開始。さまざまな用途・カテゴリでの利用が広がっており、今後も多様な活用を推進し拡大していく方針。

サブスクの拡大状況

サブスク機能としてメンバーシップを導入したことにより、サブスク開設数（メンバーシップ+定期購読マガジンの件数）は12,000件超、メンバーシップ購読者数は前年比5倍に拡大。

サブスク開設数

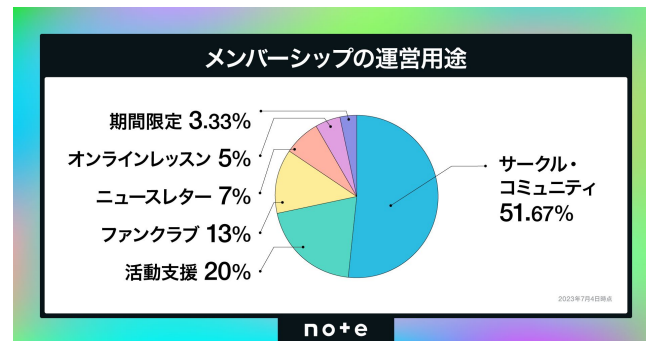
累計 **12,000** 件超

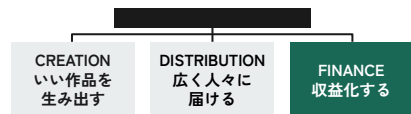
メンバーシップ購読者数

前年比 **5** 倍

メンバーシップの用途

コミュニティ内でのメンバー同士の交流だけでなく、会員限定コンテンツを公開するファンクラブやオンラインレッスンの実施など、さまざまな用途での活用が広がる。





SNSプロモーション機能・PayPayゲスト課金対応

noteユーザー以外にもコンテンツを届け、コンテンツ購入につなげやすくするため、SNSプロモーション機能やゲストユーザーのPayPay利用対応を開始。今後も課金関連機能の改善・拡充により、GMVの拡大につなげる。

SNSプロモーション機能※

クリエイターは、Twitterで記事の拡散を手伝ってくれた読者に、有料記事を無料または割引で販売することができるプロモーション機能をリリース。

クリエイターの メリット

- 読者の力を借りてTwitterで拡散されやすくなり、多くの人に記事を届けられる
- 記事をお得に販売できる

読者の メリット

- 対象記事を拡散するだけで、有料記事を無料または割引価格で読むことができる

本機能によりクリエイターのファン層が拡大し
中長期的な売上拡大につながることを想定

PayPayゲスト課金対応

noteに会員登録をしていない方も、PayPayを利用して有料記事が購入できる機能をリリース。

note会員 決済手段

- クレジットカード
- 携帯キャリア決済
- PayPay

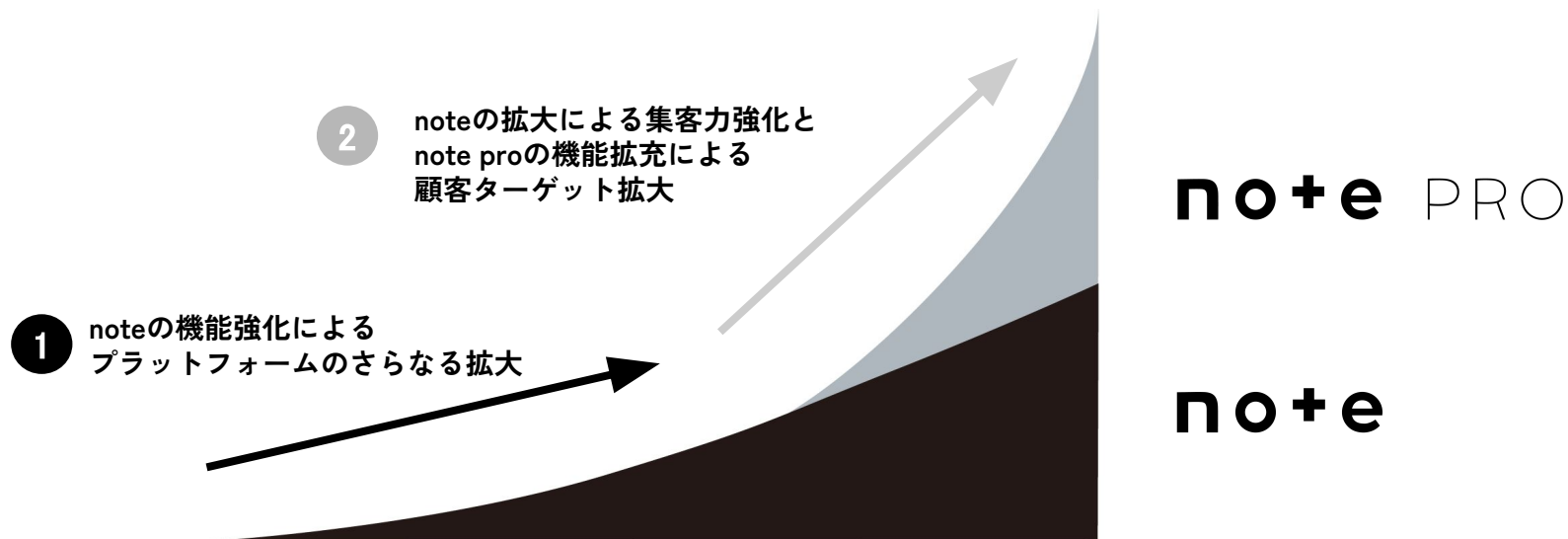
note非会員 決済手段

- クレジットカード
- PayPay

本機能によりユーザーの決済手段が増加、
記事購入機会の増加につながることを想定

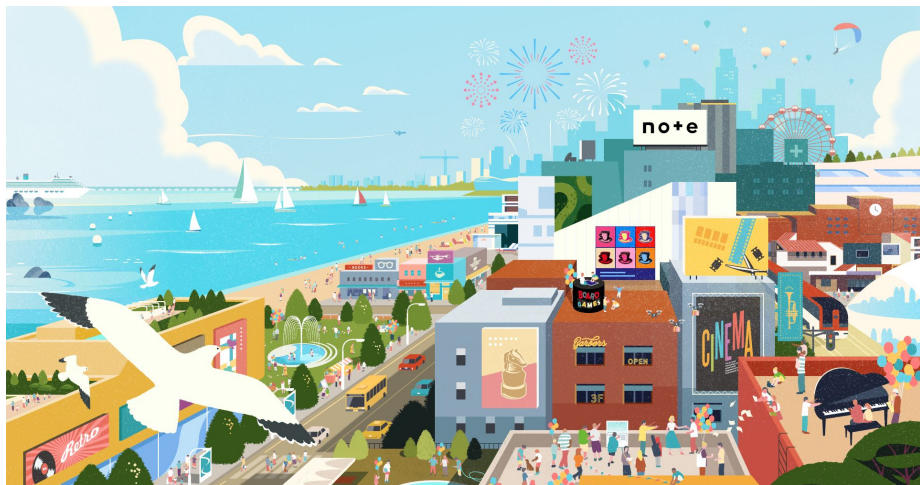
C向けとB向けのハイブリッドなグロース戦略

noteの機能向上によりプラットフォームとしての魅力をさらに高めることでnoteの「街」にさらに多くのクリエイターや読者を呼び込む。その上でnote proの機能拡充をおこなっていき、顧客ターゲット拡大によるさらなる成長を目指す。



noteが目指すのはインターネット上の「街」

当社はnoteというプラットフォームをインターネット上の「街」と捉えており、個人・法人に関わらずあらゆる人が集まり、インターネットにおける創作・ビジネスをはじめとしたあらゆる活動の本拠地となることを目指します。



noteが目指す「街」とは、
個人・法人問わず、あらゆる人が集まる場所。

ここではあらゆる人が活発に創作活動や経済活動を行い、人々の間に交流が生まれることで、文化や経済がますます発展していきます。

そんな「街」を、インターネット上につくります。

目次

- 01 決算概要
- 02 業績予想
- 03 今後の成長戦略
- 04 お知らせ**
- 05 Appendix
 - 会社概要
 - 事業概要

上場企業のIR記事を配信する「IR note マガジン」

noteを活用してIR情報を発信する企業が増えていることを受け、投資家の皆さまに参加企業のIR情報をまとめてお届けし投資判断に役立てていただくことを目的に、上場企業37社と「IR note マガジン」を共同運営しています。



こちらからマガジンをフォローいただくと、noteでIR情報を発信する企業の情報をまとめて受け取ることができます。

株主・投資家の皆さまはぜひご覧ください！

<https://note.com/notemagazine/m/m530d4bde968b>

個人投資家向けイベント 登壇のお知らせ

現在、以下の個人投資家向けイベントへの登壇を予定しております。機会がありましたらぜひご参加ください。

8月29日(火)

- **グロースキャピタル**

開催形式：オンライン開催 登壇者：代表取締役CEO 加藤貞顕

10月14日(土)

- **湘南投資勉強会**

開催形式：会場・オンライン併用 登壇者：取締役CFO 鹿島幸裕

11月11日(土)

- **神戸投資勉強会**

開催形式：会場開催（東京） 登壇者：取締役CFO 鹿島幸裕

IR情報の発信について

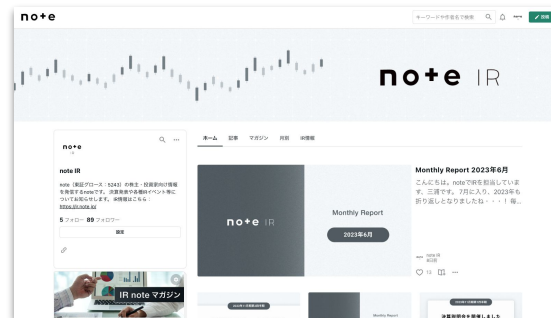
当社のIR情報はTDnetでの情報開示に加え、IRサイトやnoteより発信しています。以下のURL・QRコードよりご確認くださいいただけます。IRに関するご要望やお問い合わせは、IRお問い合わせ窓口よりお気軽にご連絡ください。

■ IRサイト



<https://ir.note.jp/>

■ IR note



https://note.com/note_ir



目次

- 01 決算概要
- 02 業績予想
- 03 今後の成長戦略
- 04 お知らせ
- 05 Appendix**
 - 会社概要**
 - 事業概要

会社概要

設立

2011年12月8日

従業員数

175名（2023年5月時点）

* 正社員及び契約社員の合算であり、役員・臨時雇用者は含まない

主な株主



事業内容

C2Cメディアプラットフォーム「note」、
メディアSaaS「note pro」

所在地

東京都港区北青山3-1-2
青山セント・シオンビル 4階

Mission

**だれもが創作をはじめ、
続けられるようにする。**

Message

インターネットの発展により、だれでも創作できる時代がやってきました。

かつては限られた人だけが、メディアを通じて創作物を発表することができました。インターネットの登場以降は、だれでも自由に表現する場所を得て、発信することができるようになっています。

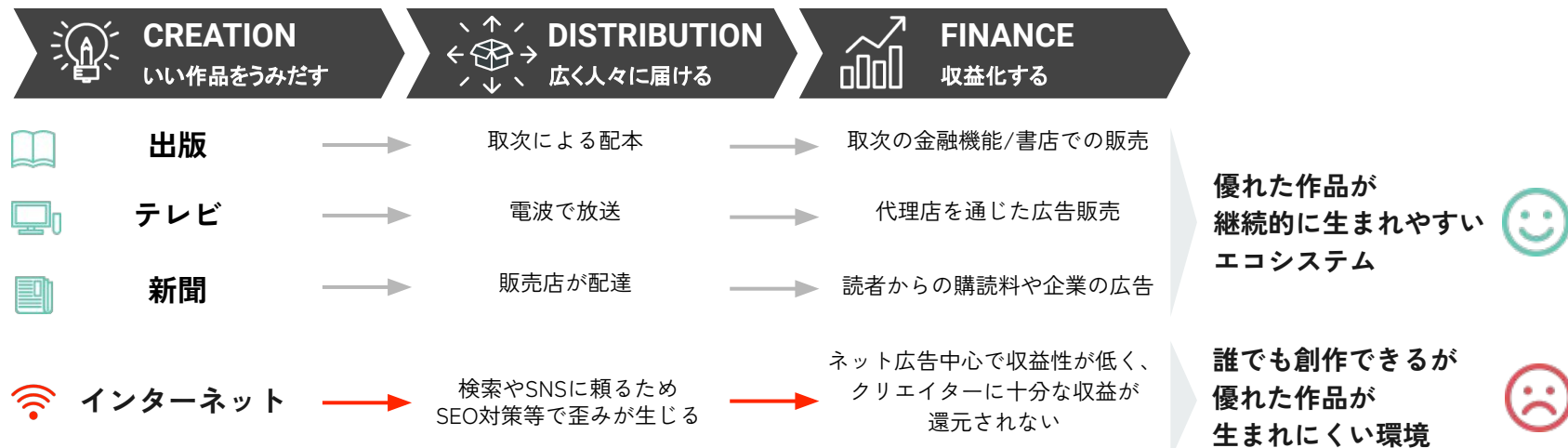
しかし、創作を続けていくことは、まだまだハードルが高いのも事実です。膨大な情報の海のなかで、伝えたい相手に伝えたいことをきちんと届けるのは難しいことですし、自分の作品を大勢の人に知ってもらうのはもっと大変です。

そして、継続していくためには創作活動を一定の収益につなげることも重要ですが、既存のメディア産業がもたらしてくれたような、わかりやすいビジネスモデルはネット上にはまだありません。

当社はそれらの問題を解決するための会社です。「note」というウェブサービスを通じ、あらゆる人、あらゆる組織の、クリエイティブ活動を続けていくための手助けをして、だれもが自分らしく暮らしていける創作の街をつくっていきます。

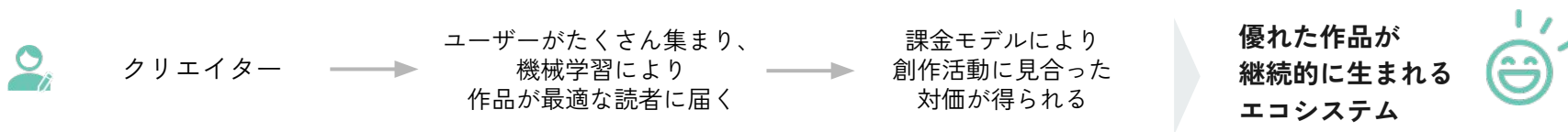
インターネットにおける創作を取り巻く課題

出版・テレビ・新聞など伝統的なメディアの確立されたエコシステムに対し、インターネットは収益化の手段の大半をネット広告からの収入に依存するため、その収益性の低さからいい作品が継続的に生み出されるためのエコシステムが確立していなかった。



noteが提供する価値

インターネットにおける創作を取り巻く課題を解決するために、noteが誕生。
ユーザーがたくさん集まるプラットフォームにおいて、作品が最適な読者に届き、課金モデルによってクリエイターが創作活動に見合った対価を得られる仕組みを構築することで、クリエイターエコノミーを促進。



クリエイターが適切なファンと直接つながる仕組みをつくることで、
クリエイターエコノミーを促進

Management team



代表取締役CEO

加藤 貞顕 (かとう さだあき)

アスキー、ダイヤモンド社に編集者として勤務。日本を代表する編集者として『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』（岩崎夏海）、『ゼロ』（堀江貴文）、『マチネの終わりに』（平野啓一郎）などベストセラー作品を多数手がける。2012年、コンテンツ配信サイト「cakes」をリリース。2014年、CtoCメディアプラットフォーム「note」をリリース。

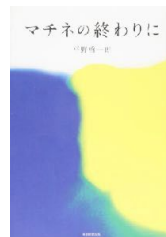
編集にたずさわった作品例



290万部のミリオンセラー。
映画・アニメ・マンガ化、
流行語大賞ノミネートを果たす。



堀江貴文氏の著書で
最大の40万部を突破。



純文学では異例の50万部を突破した大ヒット作品。
2019年11月に福山雅治、石田ゆり子出演で映画化。



マチネの終わりに





取締役CTO
今 雄一

1985年北海道生まれ。
千葉大学大学院工学研究科
修了。ディー・エヌ・エー
にてソーシャルゲームの
サーバーサイド開発業務と
運用を経験。2013年9月より
現職。noteの立ち上げから
関わり、現在もインフラから
フロントエンドまで幅広く
対応。



取締役CFO
鹿島 幸裕

1983年愛知県生まれ。東京
大学法学部卒業、スタン
フォード大学MBA。外務
省、外資系戦略コンサル
ティング会社を経て、株式
会社カカコムの新規事業
責任者や経営企画部長を経
験。その後美容室チェーン
のCFO兼CAOを経て、現
職。



執行役員
坂本 洋史

1977年埼玉県生まれ。
早稲田大学第二文学部卒
業。週刊アスキーWeb版の
副編集長として、メディア
開発・運営責任者を経験。
その後、Amazon Japanの
ウェブプロデュースマネー
ジャーとして、マーチャン
ダイジングやウェブマーケ
ティングなどを担当。現在
は、事業開発、事業推進、
アライアンスなどを担当。



CXO
深津 貴之

大学で都市情報デザインを
学んだ後、英国にて2年間ブ
ロダクトデザインを学ぶ。
株式会社thaを経て、Flash
コミュニティで活躍。2009
年の独立以降は活動の中心
をスマートフォンアプリの
UI設計に移し、株式会社
Art&Mobile、THE GUILDを
設立。2017年10月より現職。



CDO
宇野 雄

制作会社やソーシャルゲー
ム会社勤務の後、ヤフー株
式会社へ入社。Yahoo!
ニュースやYahoo!検索など
のデザイン部長を歴任し、
その後クックパッド株式会
社でVP of Design/デザイン
戦略本部長を務める。2022
年2月よりnote株式会社
CDOに就任。東京都デジタ
ルサービスフェローの他、
数社でデザイン顧問/フェ
ローも請け負う。



経営管理
吉島 彰宏

1964年、東京都生まれ。上
智大学法学部法律学科卒
業。1999年より安田企業
投資にてベンチャーキャピ
タルとしてアーリーステージ
のIT企業中心に投資活動
を行う。2009年にベンチャー
企業のファイナンスと経営
管理をサポートするため独
立、複数のベンチャー企業
の支援を行う。2012年10月
より当社に参画し2013年5月
より現職。

note社の強み

クリエイティブ、デザイン、テクノロジーの3つが三位一体となった経営、組織能力、プロダクト開発力とサービス運営に強みを持つ。



Creative

編集者出身の加藤貞顕が立ち上げた会社。複数のメディア企業と強固なつながりを持つ。

クリエイターの創作活動を強かにエンパワーメント



Design

CXO・CDOの2名をトップに擁し、プロダクトデザインから会社全体でのUX設計、組織運営までデザインの力で牽引。

優れたUI/UXが競争優位性を創出



Technology

大手IT企業やテクノロジー系スタートアップ出身の技術者を多数抱える。

コンテンツの流通・収益化を支える仕組みを実現

目次

- 01 決算概要
- 02 業績予想
- 03 今後の成長戦略
- 04 お知らせ
- 05 Appendix
 - 会社概要
 - **事業概要**

事業概要

だれもがインターネット上で自由にコンテンツを投稿・販売できるC2Cメディアプラットフォーム「note」と、noteを基盤に企業の情報発信を簡単かつ効果的に行うためのメディアSaaS「note pro」を中心に事業を展開。

note

だれもが文章やマンガ、音声等さまざまなコンテンツを自由に投稿・販売することを可能にするメディアプラットフォーム。

インターネット上での継続的な創作活動を可能にすることにより、クリエイターエコノミーを促進。

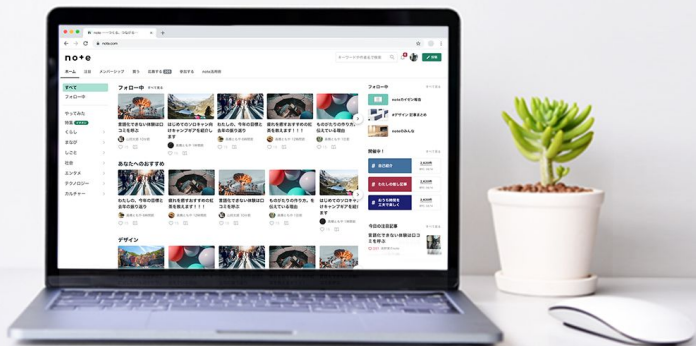
note PRO

企業のオウンドメディア運営、ホームページ構築など、情報発信を簡単に行うことを可能にするメディアSaaS。noteの標準機能に加え自社サイト構築に必要な機能を提供し、noteを基盤とする情報発信を支援。

法人向けサービス

- ・ noteコンテスト
企業とコラボレーションし、note上でクリエイターから作品を募集する企画を開催
- ・ イベント
note連動イベント等のため、イベントスペース”note place”を貸出

note



あらゆるクリエイターをエンパワーメントするCtoCの
メディアプラットフォーム。2014年4月スタート。

MAU **4,573 万**

累計会員登録者 **663 万人**

公開コンテンツ数 **3,490 万件**

年間流通総額（税込） **111 億円**


* 年間流通総額（税込）は2022年11月期の数値。その他は2023年5月末時点の数値

noteの概要

クリエイターが文章やマンガ、音声等さまざまなコンテンツを自由に投稿・販売することができ、読者がコンテンツを楽しみ、クリエイターを支援・購買することができるメディアプラットフォーム。



掲載コンテンツ例

 今日も今日とて、水が美味しい
岸田 奈美

仕事で仲良くなったある人から、おそろおそろ言われた。

「岸田さんって、その、文筆業以外にお仕事されます？」

「してますよ。しゃべるとか」

「いや、それがその」

エッセイ

 DEATH STRANDING DIRECTOR'S CUT #IngamePhoto
横田裕市 / 写真家



DEATH STRANDINGはPS4,およびPS5で発売されたコジマプロダクション最初のゲーム作品。



写真

 【音源】ブルグミュラー / 25の練習曲 Op.100
Kyohei Sorita 反田恭平

【音源】ブルグミュラー / 25の練習曲 Op.100

♡ 1063

反田恭平

 00:00 / 00:30

※試聴版。オリジナル版(30:44)は購入後に視聴可能。

【全曲収録】ブルグミュラー / 25の練習曲 Op.100

・演奏、録音、編集など / 反田恭平
・会場 / 自宇。 2020.05.25

音楽（楽曲販売）

 THE MOVIE #64 予告編
リアル頑張ってる途中 neo エピ中のニューノーマルを駆け...



今回は、小久保柚乃さん、真山りかさん！

動画

 【漫画】よく聞く『意識する』の正体ってなに？
吉本ユータスキ



漫画

 【2021年11月更新】国内SaaSスタートアップデータ 351社
企業データが使えるノート | 運営 早船 明夫

以下、サンプルデータとなり、全量ダウンロードはコンテンツ最下部

SaaS startup data sample.xlsx

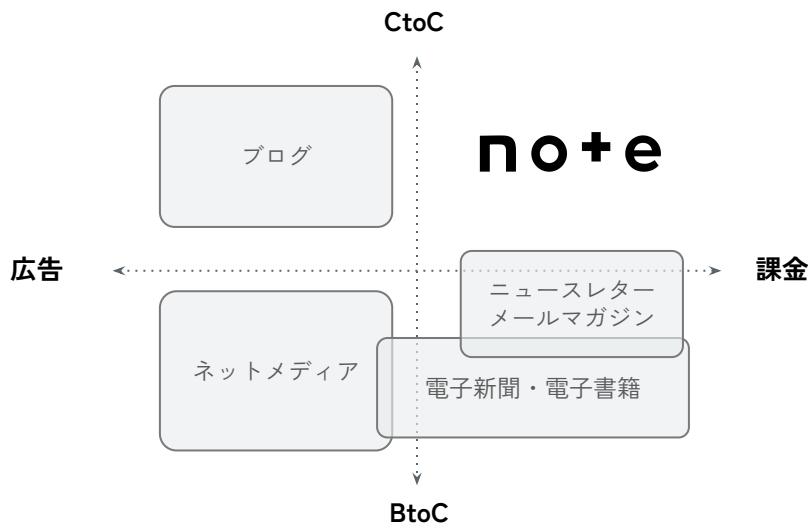
10355 Bytes
ファイルダウンロードについて

[ダウンロード](#)

データファイル

「CtoC × 課金」の独自のビジネスモデル

CtoC × 課金モデルで、他のメディアと比べてもユニークなポジショニングを形成。このビジネスモデルが、創作に見合った対価を得られること、広告・ランキングがない等の優位性につながっている。



CtoC × 課金モデルによる優位性

- クリエイターは創作活動に見合った対価が得られる
- 広告・ランキングがないため、読者はクリエイターの世界に没頭でき、クリエイターは自由に安心してコンテンツを投稿できる
- 収益化を意識した良質なコンテンツが集まりやすい

幅広いジャンルの著名人や法人・公共機関が利用

情報発信の場として、芸能人・経営者をはじめとする幅広いジャンルの著名クリエイターや、さまざまな法人、教育機関や行政機関等の公共機関にも多数利用されている。

著名人による利用

日本人Twitterフォロワー数上位1万人のうちnoteアカウントを連携しているユーザー数^{※1}

1,000人超

芸能人

作家

政治家

漫画家

経営者

音楽家

アスリート

インフルエンサー

研究者

※1 当社調べ（2022年11月時点）

法人による利用

法人のnote・note proアカウント数^{※2}

25,000件超

よろこびがたく世界へ
KIRIN

Panasonic

文藝春秋



RECRUIT

Money Forward

yappli



※2 数値は2023年5月末時点のnote、note プレミアム、note proの3タイプのアカウントでの法人利用合計数

公共機関等の利用

教育機関や行政機関へのnote pro提供数^{※3}

学校 316

自治体 136

中央省庁・
独立行政法人 26

※3 note pro無償提供件数（2023年5月末時点）

個人クリエイターのコンテンツ購入が当たり前に

noteの認知が広まるにつれて個人クリエイターからのコンテンツ購入が当たり前となってきており、2022年度の年間流通総額は111億円に。2022年の年間売上では上位1,000人の平均売上が897万円となり、中にはnoteだけで生計を立てられるクリエイターも。

年間流通総額

2022年11月期

11,195 百万円

クリエイターの売上

2022年11月期
上位1,000人の平均年間売上

897 万円

ARPPU^{※1}

有料コンテンツ購入者が
noteにつかうヶ月あたりの平均金額^{※2}

2,573 円

※1 ARPPU=Average Revenue Per Paid Userは各四半期の購読者一人当たりの平均月間購入額。

※2 2023年5月末時点

クリエイターによるnoteの活用事例

元日経新聞記者の後藤さんは、情報発信の場としてnote・YouTube・Twitterを活用しており、noteではサブスク形式で会員限定で情報発信ができる「メンバーシップ」を運営、25,000人超※のファンが参加するコミュニティを形成している。



後藤達也さん

元日経新聞記者。
経済ニュースを「わかりやすく、おもしろく」をテーマに、経済や投資になじみのない方にもわかる形で情報を発信。

note

- 経済・投資に関する**詳細な解説記事をテキストで配信**
- メンバーシップでは、会員限定コンテンツの配信のみならず**掲示板やイベント等を通じたファンとの交流の場**として活用

三本柱として
活用

YouTube

- 動画コンテンツを配信
- 他のクリエイターとの
コラボ等で活用

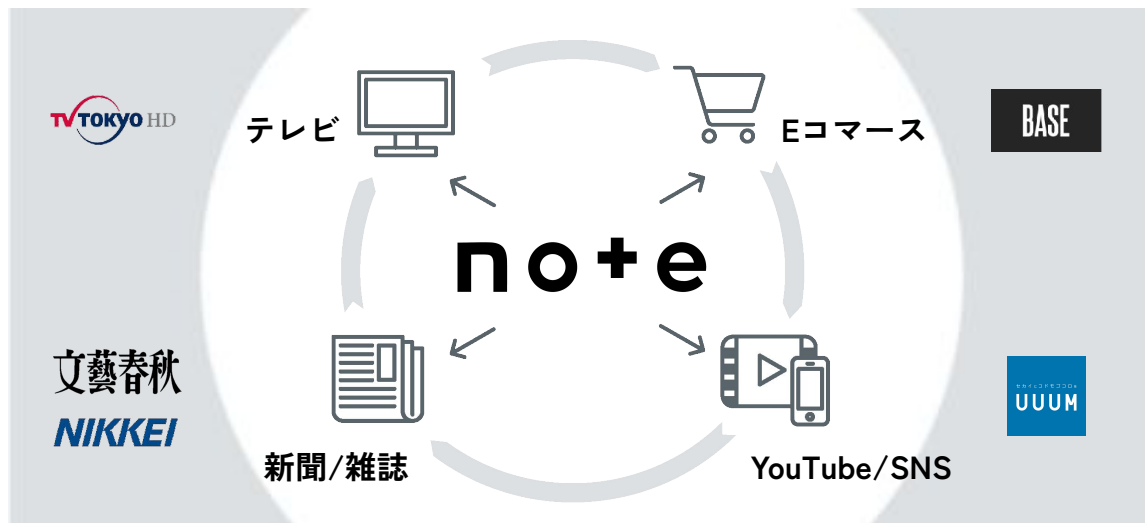
Twitter

- 速報性の高い情報を配信
- 幅広いユーザーへの
情報拡散に活用

クリエイターの活躍の場を広げる仕組み

資本業務提携先等の既存メディアにクリエイターを紹介することで、オンラインのみならずオフラインでもクリエイターの創作活動を後押しする仕組みを構築。クリエイターにとってはnoteに投稿された作品がマルチチャンネルでさらに拡がることで活動機会の増加につながるとともに、既存メディアにとっては新しいクリエイター発掘の場となっている。

資本事業提携先



noteから映像化・書籍化された作品が多数誕生

note発で多くの作品がドラマ化、映画化、出版につながっており、クリエイターエコノミーの時代におけるメディアプラットフォームとしての地位を確立。

noteから書籍化

noteから書籍化された作品数※

累計 **235** 作品



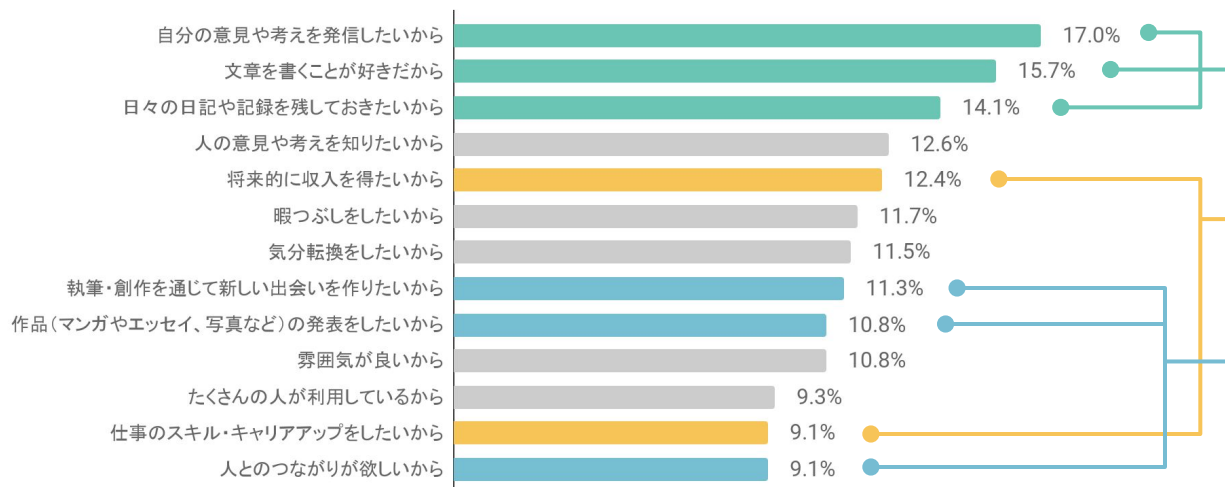
※ 2023年7月14日時点で発売済みの作品数。ただし、当社が「noteから書籍化された作品」として認識しているものに限る。

創作・発信・ビジネス基盤としてクリエイターから評価

クリエイターからは、創作・発信やビジネスの基盤となる点を評価されており、noteのクリエイティブ、ディストリビューション、ファイナンスのエコシステムが支持されている。

note利用実績調査

Q. noteを「コンテンツを投稿する用途」で利用している理由をすべてお答えください。



創作・発信

①安心してクリエイティブに専念できる

ビジネスの基盤

②継続的なビジネスの基盤となる

メディア・伝播

③ファンとつながり、蓄積できる

※ 調査委託先：マクロミル（2022年2月）
「noteでコンテンツの閲覧・投稿をしている（していた）」と回答したユーザー(n=453)が対象。

①安心してクリエイティブに専念できる

ランキングがない、広告がなくPV目的の炎上を起こすインセンティブが生じづらい、いい作品が最適な読者に届きやすい仕組み等により、クリエイターが安心してクリエイティブに専念できる環境の構築を目指す。



ランキングがない

ランキングがないことで、クリエイターは発信したいことに専念できるため、多様性が保たれています。



広告がない

投稿コンテンツ内に広告が表示されないため、読者が内容に没頭できます。



最適な読者に届く

読者やnoteディレクターによるピックアップに加え、AIによるレコメンド機能により、コンテンツは最適な読者に届けられます。

②継続的なビジネスの基盤となる

コンテンツ課金をいち早く取り入れ、記事単体やサブスク形式での販売、コミュニティ運営も可能。また、ECカート等の外部サービスも埋め込み可能で、幅広いクリエイターに対応。

多様なコンテンツ課金

投稿したコンテンツは単発での販売が可能だけでなく、月間購読形式での販売も可能。また、コミュニティ運営が可能な「メンバーシップ」や、読者がクリエイターを支援できる「サポート」といった形での収益獲得も可能。

単発

- 有料記事（単体記事）の販売
- 有料マガジン（複数記事一括）の販売
- 読者からのサポート

サブスク

- 定期購読（月額購読）マガジンの販売
- メンバーシップ（月額制コミュニティ）の運営

さまざまな埋め込み機能

SNS、動画、音声ストリーミングサービス等、幅広いコンテンツを埋め込むことができ創作の本拠地にすることができるほか、ECカートや求人カードを埋め込むことができ、ビジネスにつなげることが可能。

コンテンツ系

Youtube、TikTok、Apple Music、Spotify、Instagram、Googleスライドなど

ビジネス系

Amazon、Shopify、BASE、CAMPFIRE、Makuake、Wantedlyなど

A4 PAPER STOCKER | docketstore powered by BASE

一般的な事務用品として販売されているA4コピー用紙の紙束500枚がキレイに収まるオリジナルボックスを作りました。A4コピー用紙500枚入り。docketstore.theshop.jp

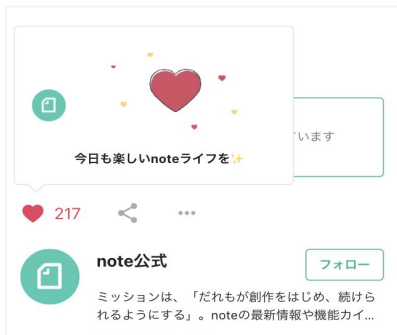
3,300円

docketstoreで購入する



③ファンとつながり、蓄積できる

noteは投稿するだけでなく、フォローなどの仕組みを通じてファンとつながり、コンテンツも蓄積できる。サブスク形式の配信も可能で、ファンや読者と長期的な関係性を築きやすい。



フォローしてつながる

ユーザー同士がフォロー、スキ、コメント等でつながることができます。



ファンやコンテンツを蓄積できる

コンテンツやファンが蓄積され、noteが自分のポートフォリオになります。



サブスクで長期的な関係性を築ける

サブスク形式でのコンテンツ配信やコミュニティ運営により、読者と長期的な関係を築けます。

クリエイターの声

作家



作家・岸田奈美さん

noteを使い始めたきっかけ

会社時代に副業が解禁され、社外活動の一環としてスタート。noteはデザイン的にラフな文章でも映えるし、シェアやサポートといった共感と応援を集めやすい仕組みもある。無名の書き手であっても、内容が面白ければ編集部の人たちがピックアップしてくれる。

noteを使って起きた変化

- ✓記事が話題になったことで、半年で作家として独立
- ✓初の著書を2020年9月に発売

飲食店



鮨ほり川・堀川文雄さん

noteを使い始めたきっかけ

コロナ禍での緊急事態宣言の影響で、お店の存続が危ぶまれたことで、いまできることをやろうと発信を始めた。友人がnoteでの発信をきっかけにお客さんが増えたと聞いて、時代の先をいくサービスだと感じた。

noteを使って起きた変化

- ✓来店客の6割がnoteをきっかけにお店を認知
- ✓若いお客さんが急増
- ✓コメントをきっかけに新メニューやコースを考案

note PRO



企業のオウンドメディア運営、ホームページ構築など、情報発信を簡単に行うことを可能にするサブスクリプションモデルのメディアSaaS。申込みから最短即日で利用可能。

有料契約数 **694** 件

初期費用 **¥0**

料金体系 月額 **¥80,000**

- * 2023年5月末時点
- * 2023年2月1日より月額利用料を5万円（税抜）から8万円（税抜）に改定。ただし、既存契約分は料金改定の対象外。

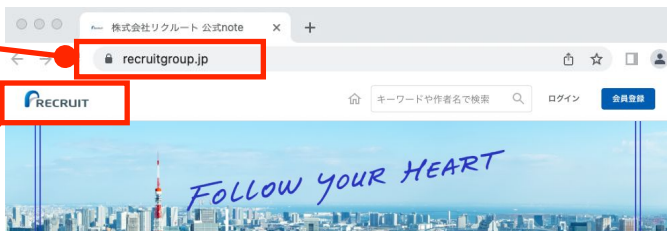
法人向け機能をnote proとして提供

noteの標準機能に加え、オリジナルのサイト構築に必要な機能を法人向けに提供、さらにカスタマーサクセスによる手厚いサポートを実施。

		note	note PRO
コンテンツ制作	無料記事・無料マガジンの掲載	✓	✓
	共同運営マガジンの掲載	△ (制限あり)	✓
	予約投稿機能		✓
	コメント欄のON/OFF		✓
	メンバー権限管理機能		✓
サイト構築	独自ドメインの適用		✓
	独自ロゴの設定		✓
	認証マーク付与		✓
	メニューのカスタマイズ		✓
	お知らせ枠の設定		✓
分析	クリエイターページへのマガジン記事表示		✓
	ダッシュボード	✓	✓
運営サポート	note proアナリティクスβ		✓
	個別セットアップラーニング		✓
	個別カウンセリング		✓
	契約法人コミュニティ		✓
	契約法人勉強会		✓

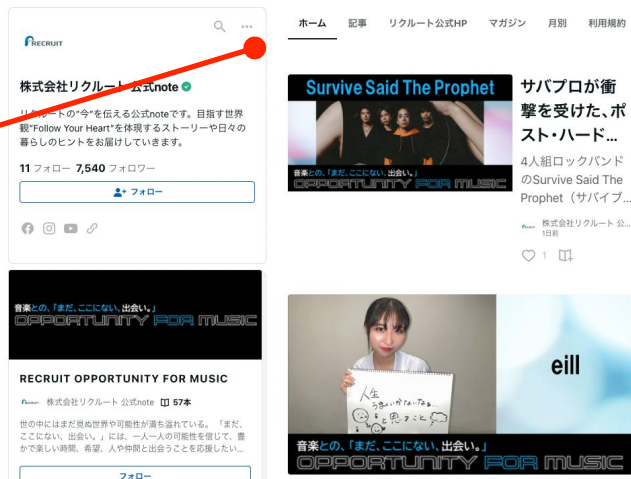
note proの仕様例

独自ドメイン



独自ロゴ

TOPや
メニューの
カスタマイズ



カラー指定



コンテンツ販売も
noteと同様に可能

国内外の法人や自治体など多様なユーザーが利用



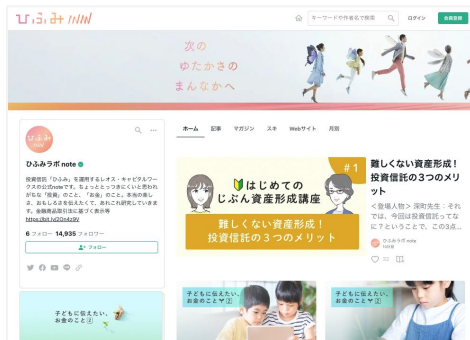
ソニー



カルビー



フィードフォース



レオスカピタルワークス



厚生労働省

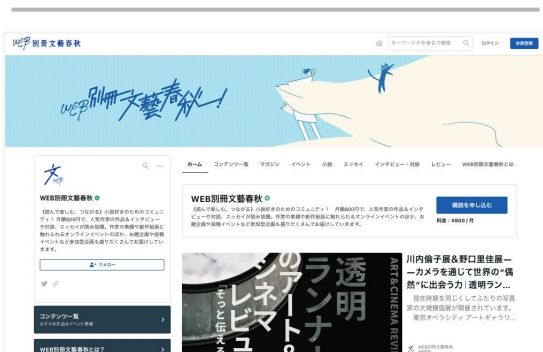


東京都

主な活用シーン

メディア・ブランディング・HR等幅広い場面で活用可能。note記事として幅広いユーザーに対しストーリー性の高いコンテンツを提供できるため、情報発信力とユーザーエンゲージメントが高い。

サブスクリプションメディア



株式会社文藝春秋

雑誌掲載コンテンツが月額サブスク形式で読めるオンラインメディアを、短期間で立ち上げ。

ブランディング



キリンホールディングス株式会社

商品に関する記事の投稿やコンテストの開催等により、ブランドメッセージを発信。

人材採用

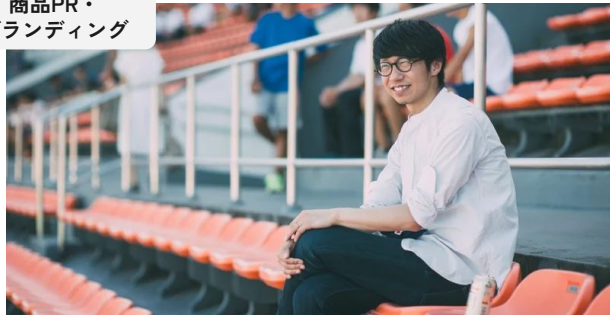


株式会社ベーシック

意向度の向上のためnoteを活用。採用応募数・内定承諾率の向上に加え、離職率も減少。

note proクリエイターの声

商品PR・
ブランディング



キリンホールディングス

noteを使い始めたきっかけ

自分たちのストーリーを伝える場所を持つため。他のSNSとnoteの違いは、想いを伝える長文コンテンツが中心であること。noteは一般的な広告アプローチとは異なり、コアなファンユーザーから「同心円状」に推奨して拡げてもらうコンテンツを理想としています。

noteを使って起きた変化

- ✓ インタラクティブなコミュニケーションができる
- ✓ 作り手を主語にした語り合う場ができた

採用・インナー
コミュニケーション



NEC ネットエスアイ

noteを使い始めたきっかけ

連結で7,500名を超える社員がおり、全員に情報をしっかりと伝えるためにはコミュニケーションを活性化させる発信が不可欠だった。社員へ情報を浸透するためには、キレイな情報だけでなく、書き手の内情や想いの乗った「手触り」のある情報発信が必要であり、新入社員や中途社員が入社後にギャップを感じないためにも、こうした発信が重要だと考えている。

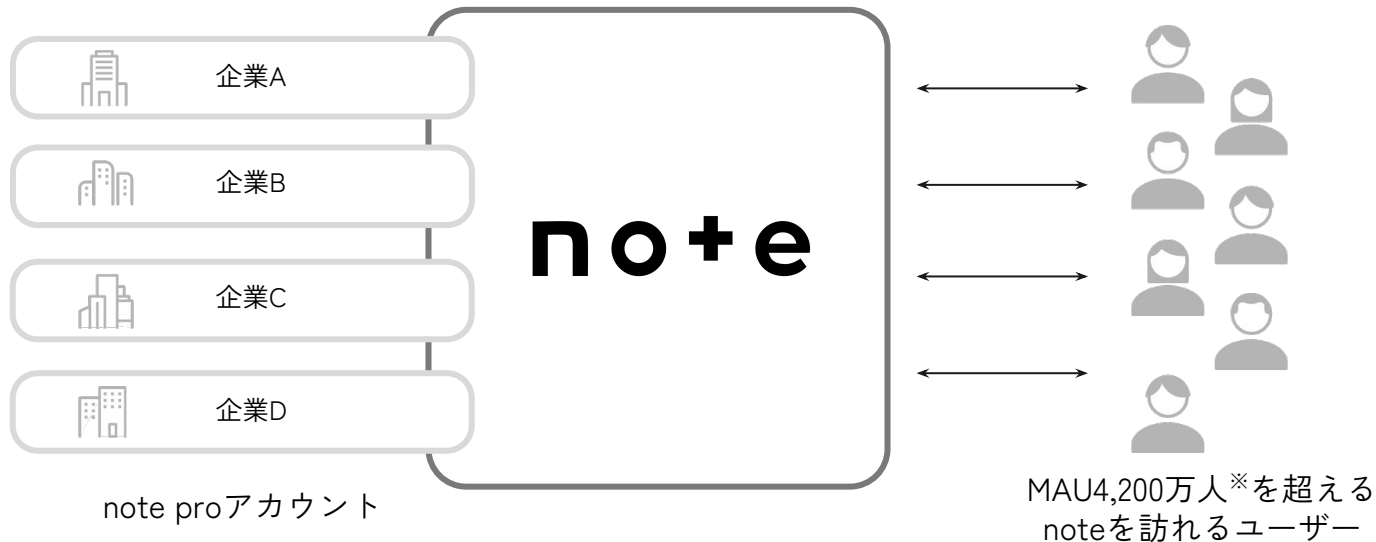
noteを使って起きた変化

- ✓ 「社内の風通しの良さ」のスコアが3.20→3.75にUP
- ✓ 採用エントリー数1.62倍、選考参加数1.22倍に増加

note inc.

特長①：noteを基盤とする集客力

note proは、noteから独立したWebサイトだがnoteとつながっているため、noteのユーザーに対して直接アプローチできる集客力も特長。さまざまな企業によりSNSマーケティングのような形で利用されている。



※ 2023年2月末時点の数値

note inc.

73

特長②：Webサイトとしての機能性

note proは、独自ドメインを持つ独立したWebサイトをカスタマイズにより簡単に開発できるため、Webサイトを開発・運用できるSaaSとしての側面を持つ。カスタマイズにより簡単に開発でき、システムやUI/UXは常時最新にアップデートされるうえ、決済・ダッシュボード・コンテンツ管理等のビジネス機能も備えている。

開発

- 制作会社の選定・Webサイトの要件定義からゼロベースで開発
- 開発に数ヶ月かかることも

運用・管理

- セキュリティ対策等
定期的なアップデートが必要
- SEO対策が必須

ビジネス

- 各種ツールは別途手配が必要
継続的な個別管理が負担に

Webサイト構築の
一般的なプロセス

note PRO

- 独自ドメインが設定可能な
独立したWebサイト
- 各種カスタマイズにより、
スピーディーな開発が可能

- システムやUI/UXは
常時最新にアップデート
- カスタマーサクセスによる
サポートが受けられる

- 決済・ダッシュボード・
コンテンツ管理等の機能
標準機能として利用可能

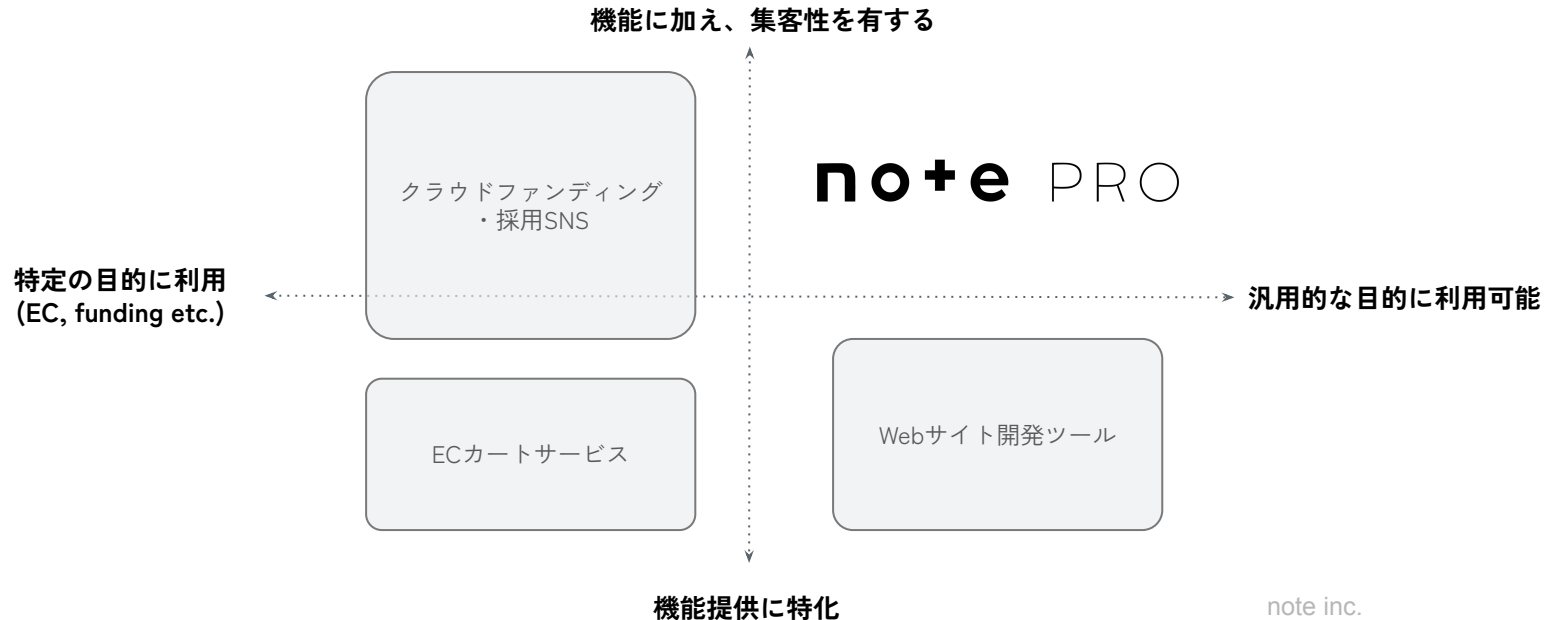
WebサイトとSNSの特長を併せ持つnote pro

Webサイトとしての機能性とnoteを基盤とするSNSのような集客力から、note proは企業がユーザーとのつながりづくりからビジネスまで一貫して行うことを可能にする“メディアSaaS”。



Webサイトを開発・運用できるSaaSとしての立ち位置

note proは他のWebサイト開発ツールと比べ集客性に特徴があり、単なるWebサイトの開発・運用保守にとどまらず企業のあらゆる情報発信を媒介・強化する“メディアSaaS”としての立ち位置。



note/note pro：ビジネスモデル

noteの収益源はコンテンツ売買（有料記事販売、メンバーシップ）等にかかるサービス利用料（下図①）、note proの収益源はシステム提供（note proをメディアSaaSとして提供）にかかる法人からの月額料金+オプション利用料（下図②）。



*1 単体記事の販売やメンバーシップの会費は売上金額の10%、定期購読マガジン（サブスクリプションモデル）での販売は売上金額の20%。
また、プラットフォーム手数料とは別に事務手数料として、売上金額に対してクレジットカード決済では5%、電子マネー決済では7%、携帯キャリア決済では15%を徴収。note proアカウントのコンテンツ販売についても同様。
*2 別途有料オプション有り。

note成長の背景：クリエイターエコノミーの拡大・変化

クリエイター活動は、活動の場・収入源ともに多様化しており、ファンコミュニティ化が加速している状況。クリエイター活動の広がりに伴い、クリエイターエコノミーの市場規模は2021年で約1.36兆円にのぼっており、2034年には10兆円を上回る予測。

クリエイター活動の変化

活動の場の多様化

複数プラットフォームを活用し、マルチに活動を拡大

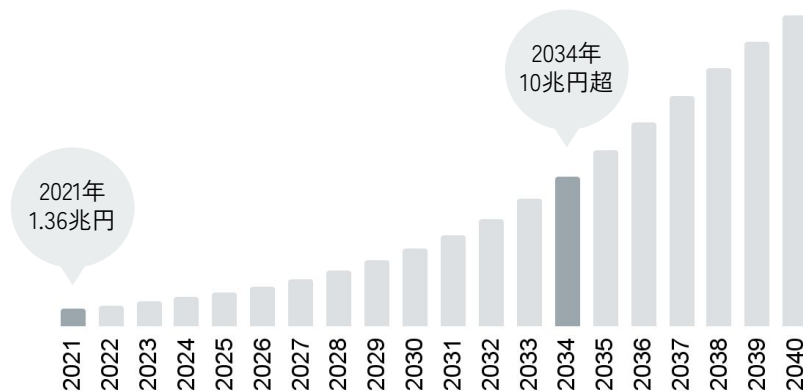
収入源の多様化

プラットフォームを通じた広告収入に加え、**直接課金により多様な収入源を確保**

クリエイター に対するファン化

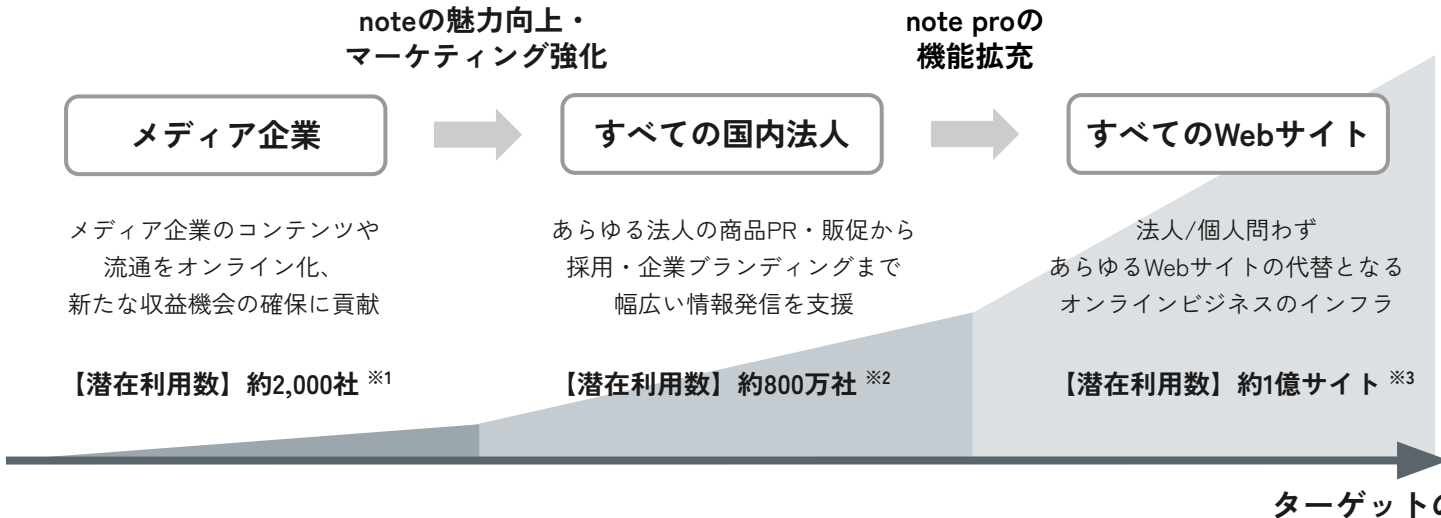
コンテンツに対する支払いではなく
クリエイター個人に対する消費の増加

クリエイターエコノミー市場規模の将来予測



note proの顧客ターゲットの拡大イメージ

noteのプラットフォームとしての魅力をさらに向上させることやマーケティングを強化することにより、あらゆる法人の幅広い情報発信において活用されることを目指すほか、今後機能拡充を進めることであらゆるWebサイトの代替となり、オンラインビジネスのインフラとなることを目指す。



※1 総務省・経済産業省「2021年情報通信業基本調査（2020年度実績）」の情報通信企業のうち、電気通信業/ソフトウェア業/情報処理・提供サービス業を除いた企業数の合算。

※2 中小企業庁「2020年版中小企業白書」と、フリーランス462万人（内閣官房「フリーランス実態調査」（2020年））を合算した数値。

※3 Total number of Websites - Internet Live Stats; 日本は、世界のウェブサイトの数にWordpressの日本語のサイトシェア5.6%を乗じて推計したもの
(<https://wordpress.org/about/stats/>)。数値は2021年4月1日に抽出。

noteでアプローチするコンテンツ市場

オンライン化されたテキストコンテンツの市場は1.5兆円、音声や映像も含めるとオンラインコンテンツで4.8兆円の市場が存在。なお、2016~2020年の年間平均成長率でSAMは9.8%^{※1}、TAMは2.8%^{※1}成長しており、今後もコンテンツのオンライン化・デジタル化が浸透していくことに伴い、市場はさらに拡大していくと想定。

コンテンツの デジタル化・オンライン化



※1 出典：総務省情報通信政策研究所「メディア・ソフトの制作及び流通の実態に関する調査（2022年6月）」市場規模は2020年のもの。

※2 出典：経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課「コンテンツの世界市場・日本市場の概観」市場規模は2018年のもの。

※3 SOM：現在アプローチしている市場規模、SAM：獲得を目指す市場規模、TAM：獲得しうる最大の市場規模

※4 2022年度の数値。

note proでアプローチするWebサイト構築市場

企業の情報発信をDXすることにより、国内法人向けWebサイト構築市場をSAMとして獲得を目指す。さらに機能強化を進めることにより、あらゆる企業のインターネットにおけるビジネス活動拠点となるTAMにアプローチしていく。

利用用途や利用主体の拡大

法人・個人問わない
インターネットにおける
ビジネス活動

国内法人による
インターネットにおける
ビジネス活動

国内法人による
Webサイトを活用した
情報発信



※1 Total number of Websites - Internet Live Stats; 日本は、世界のウェブサイトの数にWordPressの日本語のサイトシェア5.6%を乗じて推計したもの (<https://wordpress.org/about/stats/>)。数値は2021年4月1日に抽出。

※2 中小企業358万社（中小企業庁「2020年版中小企業白書」）と、フリーランス462万人（内閣官房「フリーランス実態調査」（2020年））を合算した数値。

※3 note proのARR＝¥50,000/月×12ヶ月＝¥600,000として計算。

※4 Webサイト構築サイトの市場シェアデータ*Historical yearly trends in the usage statistics of content management systems*

(<https://w3techs.com/technologies/history-overview/content-management/all/>)を参照し、

None及び商品性が異なる Wordpress と EC サイト構築の Shopify を除外した上位サービス（Joomla, Squarespace, Wix, Drupal）のシェア合計から、7%を獲得可能シェアと設定。

サイト運営の健全性確保に関する取り組み

ユーザーが安心・安全にnoteを利用できるよう、noteの運営にあたって、下記のような取り組みを通じてサイト運営の健全性を確保する体制を構築しております。

利用規約・ガイドラインの策定

ユーザーに対して利用規約をサイト上で明示しているほか、著作権への配慮や不適切なコンテンツの拡散抑止など安心・安全に利用いただくために守っていただきたいルールを記載した「コミュニティガイドライン」を定めています。

安心創作勉強会

著作権など創作に関連する法律知識についての勉強会など、クリエイターが安心して創作するために知っておくべき情報に関する研修を「安心創作勉強会」として開催し、サービスの適切な利用を促しています。

AI・パトロールによるコンテンツチェック

投稿されたコンテンツをAIやパトロールによりチェックしており、投稿内容が利用規約で禁止しているものは、削除や利用の停止等の対応を行っています。

CS窓口・通報対応

専任のカスタマーサポートチームではユーザーからの通報に基づく対応を実施しており、コンテンツの内容に応じて削除・利用停止・検索結果からの除外などの対応をとっています。

ディスクレーマー

本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。

これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新・改訂を行う義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

n o + e